

名古屋医健スポーツ専門学校				2025年度 シラバス			
科目名 (英)	生物学 (Biology)	必修 選択	必修	年次	I	担当教員	串田 三九二
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間	60	開講区分	I 学期
コース	昼間 I 部・II 部			(単位)	(4)	曜日・時限	木曜日 2・3限
【授業の学習内容】							
1タンパク質の構造と性質 細胞の生命活動の担い手ータンパク質, タンパク質の構造, タンパク質の立体構造と機能							
2生物の基本単位ー細胞 細胞の構造 原核細胞と真核細胞, 真核細胞の構造, 生体膜の構造							
3呼吸と発酵 呼吸, 酸化還元反応と呼吸, 呼吸のしくみ, 発酵, 脂肪とタンパク質の分解							
4遺伝様式と遺伝子 メンデルイズム 遺伝子の相互作用 ポリゾーン							
5遺伝情報の発現 遺伝情報とその発現, 転写とスプライシング, 翻訳, 遺伝情報の変化と形質への影響							
実務経験:昭和51年高二理科 平成11年専修理科免許 平成29年度より本学非常勤講師							
【到達目標】							
具体的な生命活動の学習を通じて、生物の知識や理解を深め、生命活動のしくみやその意義を知る。生物個体の成り立ちを知り、生命を維持するしくみが個体を構成する器官や組織でどのように働いているかを学習する。							
目標①生体構成物質の特徴、特にタンパク質分子の立体構造にもとづいて、酵素の機能や特性を説明できる。							
目標②細胞の構造をもとにした原核と真核細胞の違い、真核細胞における細胞小器官の個々のはたらきの関連性を説明できる。							
目標③生命活動のエネルギー源であるATPがミトコンドリアで生産されるしくみを考察する。							
目標④DNAと染色体、染色体と遺伝子座との対応について、自分の言葉で説明できる。							
目標⑤遺伝子の発現のしくみを理解し、遺伝情報の変化と形質の発現を関連づける。							
授業計画・内容							
1回目	1 生体での元素と物質の関係、水の重要性及び有機物の構造と機能を説明できる。(目標①)						
2回目	2 細胞の構造をもとにした原核細胞と真核細胞の違いと進化の道筋を細胞内共生をもとにして説明できる。(目標②)						
3回目	3 真核細胞における細胞小器官の個々のはたらきの関連性を説明できる。(目標②)						
4回目	4 ヒトの筋肉や神経組織の特徴について、図示しながら説明できる。(目標②)						
5回目	5 酵素の機能がタンパク質の分子の特徴にもとづくものであることを説明できる。						
6回目	6 呼吸と発酵のATP生産方法の違いについて、反応経路を図示し説明できる。						
7回目	7 体細胞分裂におけるDNAの複製と分配の周期の意味を説明できる。						
8回目	8 減数分裂時に、染色体数が半減するのはどの時期か、遺伝子の組み合わせの可能性について説明させる。						
9回目	9 メンデルの法則を基盤に、配偶子の組み合わせの習得や二遺伝子雑種への応用力を身につける。						
10回目	10 遺伝子間の相互作用によって次代の表現型と分離比の違いが生ずることを説明できる。						
11回目	11 染色体の乗換えによって生じる遺伝子の組み合わせの数を理論的に計算できる。						
12回目	12 タンパク質の多様性(アミノ酸配列)とDNAの多様性(塩基配列)の関連について考察できる。						
13回目	13 遺伝情報の転写と翻訳が示す、タンパク質とDNAの関係を科学的に考察し、その関係を表現できる。						
14回目	I 学期の内容を総括し、理解できる。						
15回目	I 学期の内容を解説し説明することができる。						
準備学習 時間外学習	目標①核酸とタンパク質の立体構造と特性を学びます。化学や生理学と共通の項目です。 目標②③高校生物基礎で履修した単元の発展内容です。復習が必要です。 目標④⑤コドンの解明方法から遺伝子の発現のしくみまでを理解し、さらに遺伝情報の変化と形質の発現を関連づけます。 2学期の内容は「生物の共通性」を取り上げた核になる内容です。前時の講義から関連する内容が多いのでしっかり復習して臨んでください。						
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)		評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格		定期試験を基に、小テスト、課題、受講態度、出席状況などを加味し、総合的に評価する。試験80% 課題、受講態度、出席状況20%		
受講生への メッセージ	生物学では、私たちの体内の器官や組織で行なわれている生命活動を学びます。特に恒常性の分野は、国家資格の取得に関係する科目を学ぶための基礎・基本となり、これからの専門科目を学ぶ上での理解を深めることになります。 専門職の技能を高めるためにも必要な基礎科目として、生物学の学習に取り組むことが大切です。						
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書:数研出版「視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録」改訂版							

名古屋健体スポーツ専門学校 2025年度 シラバス								
科目名 (英)	生物学 (Biology)	必修 選択	必修	年次	I	担当教員	串田 三九二	
学科	柔道整備科		授業 形態	講義	総時間	60	開講区分	2学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部				(単位)	(4)	曜日・時限	木曜日 2・3限
【授業の学習内容】								
1. 体内環境としての体液 体内環境と恒常性, 体液とその循環, 血液の凝固と線溶 2. からだを守るしくみ-免疫 自然免疫①-物理的・化学的防御, 自然免疫②-食作用, 適応免疫, 免疫と病気 3. 刺激の受容と反応 受容器 視覚器、聴覚器 神経単位と興奮の伝導 中枢神経 効果器、筋収縮のしくみ 4. 腎臓と肝臓による調節 腎臓と肝臓の役割, 腎臓の構造とはたらき, 肝臓の構造とはたらき 5. 神経とホルモンによる調節 自律神経系と内分泌系, 神経による調節-自律神経系, ホルモンによる調節-内分泌系, 自律神経系と内分泌系による調節 実務経験: 昭和51年高二理科 平成11年専修理科免許 平成29年度より本学非常勤講師								
【到達目標】								
体内の細胞にとって、体液は一種の環境（体内環境）である。体内環境がいかんにしてはば一定に保たれているのか、また体内ではどのようなしくみが働き、どのように調節が行われているのか、循環系、腎臓と肝臓、自律神経系と内分泌系、免疫について習得する。 目標① ヒトの3種類の体液の違いを判断するとともに、体液の循環との関係について説明できる。血液循環の経路を図を用いて説明できる。血液循環の血液凝固のしくみについて、手順を追って説明できる。 目標② 自然免疫における食作用について、図を用いて説明できる。食細胞の異物の認識のしかたとリンパ球の抗原の認識のしかたを比較して説明できる。適応免疫（細胞性免疫と体液性免疫）や免疫記憶のしくみについて、図を用いて説明できる。 目標③ 受容器の種類と構造と神経系の興奮の伝導について説明できる。筋収縮について「滑り説」を用いて説明できる。 目標④ 腎臓の構造と尿の生成・水分量の調節の関係について、図を用いて説明できる。肝臓の構造と3本の管の関係について、図を用いて説明できる。腎臓と肝臓が扱う物質（分子）の大きさの違いについて、比較して説明できる。 目標⑤ 自律神経系と内分泌系のはたらき方を比較し、図を用いて説明できる。負のフィードバックによって、ホルモンの分泌量や自律神経のはたらきが調節されることを、図を用いて説明できる。血糖濃度や体温の調節が、自律神経系と内分泌系の両方によって行われていることを図を用いて説明できる。								
授業計画・内容								
1回目	1 体内環境をつくる体液のなかで、特に血液の働きと成分、血液の循環について習得する。（目標①）							
2回目	2 ヘモグロビンの酸素解離曲線（CO ₂ 分圧・pHと温度の影響）についてグラフを用いて説明できる。（目標①）							
3回目	3 生体防御、特に体液性免疫と細胞性免疫のしくみとアレルギーや医療への応用について説明できる。（目標②）							
4回目	4 受容器の適刺激の把握と視覚器の受容のしくみについて図を用いて説明できる。（目標③）							
5回目	5 聴覚やその他の感覚器について、人と他の動物を比較しながら説明できる。（目標③）							
6回目	6 ニューロンの構造を踏まえ、膜電位と興奮の発生について理論的に説明できる。（目標③）							
7回目	7 興奮の伝導をナトリウムポンプやチャネルの作用を中心に段階的に図を用いて説明できる。（目標③）							
8回目	8 脳の構造とそれぞれの機能について、効果器と関連付けながら説明できる。（目標③）							
9回目	9 中枢神経系の働きと効果器の代表である筋肉の構造と筋収縮のしくみを図を用いて説明できる。（目標③）							
10回目	10 腎臓での尿の生成（ろ過と再吸収）と肝臓で行なわれている化学反応と調節について説明できる。（目標④）							
11回目	11 間脳視床下部と脳下垂体前葉を中心としたフィードバック機構やホルモン分泌の調節を説明できる。（目標⑤）							
12回目	12 自律神経を中心にその種類と働きおよびホルモンの特徴を図を用いて分類、説明できる。（目標⑤）							
13回目	13 自律神経系と内分泌系の協調の代表である血糖値と体温調節のしくみを詳細に図を用いて説明できる。（目標⑤）							
14回目	3学期の内容を総括し、理解できている。							
15回目	3学期の内容を解説し説明することができる。							
準備学習 時間外学習	(目標①④)解剖学・血液生理学といった専門科目の基礎を学びます。高校生物基礎の復習が必要です。 (目標②)アレルギーや自己免疫疾患についても学びます。しっかりとした基礎部分の復習が必要です。 (目標③)特に筋収縮ではタンパク質の分子レベルまで踏みこんで興味・関心をもつことが必要です。 (目標⑤)内分泌腺とホルモン、その働きを関連付けます。また自律神経系とホルモンの両面からの調節について学びます。							
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)		定期試験を基に、小テスト、課題、受講態度、出席状況などを加味し、総合的に評価する。試験80% 課題、受講態度、出席状況20%					
受講生への メッセージ	生物学では、私たちの体内の器官や組織で行なわれている生命活動を学びます。特に恒常性の分野は、国家資格の取得に関係する科目を学ぶための基礎・基本となり、これらの専門科目を学ぶ上で理解を深めることになります。専門職の技能を高めるためにも必要な基礎科目として、生物学の学習に取り組むことが大切です。							
【使用教科書・教材・参考書】								
教科書: 数研出版「視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録」改訂版								

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	保健体育Ⅰ (Judo TherapyⅢ)	必修選択	必修	年次	1	担当教員	米女 博司 加藤 雄大
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	30	開講区分	3学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(2)	曜日・時限	月～土曜日1.4限

【授業の学習内容】 柔道整復師・スポーツトレーナーとして必要な解剖学的知識(運動器)の名称や機能を理解し、スポーツ現場で起こる外傷・障害に対して、科学的根拠に基づいた対処、処置・予防ができるようになることを目的とする。 具体的には、外傷・障害を想定した患部の評価を行えるようになること。患部に対する適切な評価(スペシャルテストなど)を身につける。初期対応として患部の固定(テーピング)を行えるようになるために、根拠に基づいたテーピングを学習していく。根拠に基づいた評価をするためには、外傷・障害の発生メカニズム、バイオメカニクスについても学習していく。 柔道整復専科教員免許取得教員、中学・高校保健体育科教員免許
【到達目標】 ①運動器の構造、機能に対する知識を身につけ、説明することができる。 ②スポーツ外傷・障害についての基礎知識があり、患部に対する評価の目的を把握して実践することができる。 ③評価をした上で、固定で用いるテーピングの特性と目的を理解しており、根拠に基づいたテーピング固定を行うことができる。

授業計画・内容			
1回目	手指の捻挫について、検査、テーピングを実践することができる。		
2回目	手関節の捻挫について、検査、テーピングを実践することができる。		
3回目	肘関節の捻挫について、検査、テーピングを実践することができる。		
4回目	肩関節の脱臼、捻挫について、検査、テーピングを実践することができる。		
5回目	足関節の捻挫について、検査、テーピングを実践することができる。		
6回目	足関節捻挫（底屈・背屈制限）について、検査、テーピングを実践することができる。		
7回目	膝関節側副靱帯損傷、検査、テーピングを実践することができる。		
8回目	膝関節前十字靱帯損傷、検査、テーピングを実践することができる。		
9回目	アキレス腱断裂、アキレス腱炎、検査、テーピングを実践することができる。		
10回目	肉離れ（大腿部、下腿部のテニスレッグ）、検査、テーピングを実践することができる。		
11回目	有痛性踵骨唇、検査、テーピングを実践することができる。		
12回目	外反母趾、検査、テーピングを実践することができる。		
13回目	足底腱膜炎、検査、テーピングを実践することができる。		
14回目	定期試験 総復習 各部位のテーピング方法、目的、手順について説明することができる。		
15回目	総復習 定期試験の解説 総復習 各部位のテーピング方法、目的、手順について説明することができる。		
準備学習時間 外学習	【予習】骨・靱帯・筋の名称、場所を教科書・参考書で確認し、実習での理解を深める。		
	【復習】授業で学習した評価方法のポイントを明確にし、反復して練習する。		
評価方法	1. 定期試験（％） 2. 小テスト（％） 3. レポート（％） 4. 課題成果（％） 5. 実地試験（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験100％
受講生への メッセージ	ペアを組み、実技を行うため、動きやすい服装、また膝や肘などの患部を露出できるようにしていただくこと。テーピングでは、肌に直接貼付する場合があるので、剃毛できるとよい。		
【使用教科書・教材・参考書】			
教科書：医歯薬出版「解剖学」改訂第2版使用教材：テーピング アンダーラップなど			

名古屋医健スポーツ専門学校								2025年度		シラバス	
科目名 (英)	情報社会学 (Sociology)		必修選択	必修	年次	I	担当教員	黒柳 茂			
学科	柔道整復科		授業形態	講義	総時間	60	開講区分	I 学期			
コース	I 部・II 部				(単位)	(4)	曜日・時限	木曜日 I・4限			
【授業の学習内容】											
Word－Basic タイピング 文書作成 簡単なチラシ ポスター制作 広告など作成情報提供できる 基礎から応用までできる Excel－Basic 表計算とグラフ作成 表によるデータの取り扱い方 基礎から応用利用までを習得する 実務経験:昭和48年私立津島女子高等学校、平成26年県立一宮商業高等学校、平成28年津島北高等学校、平成29年愛知商業高等学校、平成30年緑ヶ丘高等学校											
【到達目標】											
Word 基本的なビジネス文書、表挿入文書、イラスト、図入り文書など自由にパソコンが使いこなすことができる。 Excel 基本的な計算、関数を利用した表作成、編集、グラフ、レイアウトについて習得する。											
授業計画・内容											
I 回目	PCルーム Word & Excelの概要説明 授業計画・内容説明ができる										
2 回目	PCルーム Word① 基礎的演習、機能操作ができる										
3 回目	PCルーム Word② タイピング ビジネス文書形式と文書表現の基本が説明できる										
4 回目	PCルーム Word③ タイピング ビジネス文書(修飾 均等割り付け)ができる										
5 回目	PCルーム Word④ タイピング 文書の保存・印刷ができる										
6 回目	PCルーム Word⑤ タイピング タブの設定と表挿入ができる										
7 回目	PCルーム Word⑥ タイピング 図形要素の挿入ができる										
8 回目	PCルーム Word⑦ タイピング ワードアートができる										
9 回目	PCルーム Word⑧ タイピング SmartArt クリップアート 図形ができる										
10 回目	PCルーム Word⑨ タイピング 表の編集ができる										
11 回目	PCルーム Word⑩ タイピング 段組みと縦書きの混在 ワードまとめができる										
12 回目	PCルーム Excel① 概要説明 基本の表作成ができる										
13 回目	PCルーム Excel② 関数 体裁 ファイル保存 テスト予告ができる										
14 回目	PCルーム 2学期末テスト 筆記 実技テストができる										
15 回目	PCルーム 2学期末テスト 筆記 実技テスト解説ができる										
準備学習 時間外学習	使用教材以外はプリント課題提供する。結果はUSBに保存しておく。提出で習得できる。										
評価方法	1. 定期試験(%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)		評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格		定期試験50% 実技試験40% 授業態度レポート提出10%						
受講生へのメッセージ	パソコンで文書を作成することは、当たり前とされています。就職でビジネスで役に立つ科目です。										
【使用教科書・教材・参考書】 Word &Excel 2019 実教出版 30時間でマスタープレゼンテーション PowerPoint 2019 実教出版											

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	情報社会学 (Sociology)	必修 選択	必修	年次	I	担当教員	黒柳 茂
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間	60	開講区分	2学期
コース	I 部・II 部			(単位)	(4)	曜日・時限	木曜日 I・4限
【授業の学習内容】							
Excel-Basic:表作成とグラフ作成 表の編集 条件による判断、応用的問題利用について習得する。データベースの習得 Power_Point:プレゼンテーション パワーポイントを使った資料作成、実施と反省 基礎習得 ホームページ作成 実務経験:昭和48年私立津島女子高等学校、平成26年県立一宮商業高等学校、平成28年津島北高等学校、平成29年愛知商業高等学校、平成30年緑ヶ丘高等学校							
【到達目標】							
Excel:基本的な計算、関数を利用した表作成、編集、グラフ、レイアウトについて習得する。データベース共有について習得する。 PowerPoint:Microsoft officeを利用し、操作手順、例題、例題作成を通じてストーリーづくり、ステップ学習、実践発表で基本的な内容を習得。ホームページ基礎習得。							
授業計画・内容							
1回目	PCルーム Excel③ グラフ作成方法 データ編集ができる						
2回目	PCルーム Excel④ 関数利用してグラフ作成する。円グラフ棒グラフ折れ線グラフができる						
3回目	PCルーム Excel⑤ 関数利用して縦棒積み上げグラフ、書式、編集ができる						
4回目	PCルーム Excel⑥ 条件で判断する。論理関数、式、真、偽、引数の違いが説明できる						
5回目	PCルーム Excel⑦ データの並び替え、表とグラフの作成、ワードとエクセル組み合わせができる						
6回目	PCルーム パワーポイント① プレゼンテーションとは ストーリーづくりのステップ学習ができる						
7回目	PCルーム パワーポイント② 確認シートを作成する。テーマ、理由、を明確にして学習ができる						
8回目	PCルーム パワーポイント③ テキスト通りにできるように演習作成、テーマ、サブテーマ提出ができる						
9回目	PCルーム パワーポイント④ プレゼンテーション作成スタート1人20枚以上の作成ができる						
10回目	PCルーム パワーポイント⑤ スライド作成集中、図入り、絵、表などを挿入ができる						
11回目	PCルーム パワーポイント⑥ プレゼン本番に向けて操作設定ができる						
12回目	PCルーム パワーポイント⑦ プレゼン発表1人7分実施と評価表とアドバイスができる						
13回目	PCルーム パワーポイント⑧ プレゼン発表1人7分評価と改善 テスト予告 ホームページ学習ができる						
14回目	PCルーム 3学期末テスト 筆記、実技 プレゼン評価表とUSB提出ができる						
15回目	PCルーム 3学期末テスト 筆記、実技 返却、まとめ						
準備学習 時間外学習	使用教材以外でプリント、課題を提供し結果USBに保存提出し、学習結果を習得できる。						
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格		定期試験50% 実技試験40% 授業態度レポート10%			
受講生への メッセージ	パソコンを上手に使い、情報提供、表現するか、説得力を持つ話ができるように姿勢、態度に注意すると成功する。						
【使用教科書・教材・参考書】 Word &Excel 2019 実教出版 30時間でマスタープレゼンテーション PowerPoint 2019 実教出版							

名古屋医健スポーツ専門学校	2025年度	シラバス
---------------	--------	------

科目名 (英)	表現法 (Representation Method)	必修選 択	必修	年次	I	担当教員	後藤 由香
学科	柔道整復科	授業形 態	講義	総時間	15	開講区分	I 学期
コース	昼間 I 部・II 部			(単位)	(I)	曜日・時限	火曜日 1・4限

【授業の学習内容】

- ・グループにて授業を行うことで、コミュニケーション能力を高め、チームで動くにはどうするべきかを考えることができる。
- ・自己分析を通して自身を振り返り、今後どのように生きていくといいのか、どういうところを補っていくと良いのかを習得し未来に向けた成長ができる。

*実務経験：中学・高校の美術教員免許あり。

【到達目標】

- ・グループワークから、コミュニケーション能力を高め、チームで動くにはどうするべきかを考えることができる。
- ・自己分析を通して自身がどういった成長をするべきかに気づくことができる。

授業計画・内容

1回目	コミュニケーションスキルについて学び理解する①
2回目	コミュニケーションスキルについて学び理解する②
3回目	コミュニケーションスキルについて学び理解する③
4回目	コミュニケーションについて総復習を行い、スキルをさらに磨くことができる
5回目	他者とコミュニケーションを取りながら課題に取り組むことができる①
6回目	他者とコミュニケーションを取りながら課題に取り組むことができる②
7回目	他者とコミュニケーションを取りながら課題に取り組むことができる③
8回目	他者とコミュニケーションを取りながら課題に取り組むことができる④

[illegible]

・自己分析の授業では、自分自身を事前に振り返っておく必要があります。

準備学習 時間外学習			
評価方法	1. 課題成果 (%) 2. 出席 (100%) 3. 授業態度 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	

受講生への メッセージ	表現法の授業では、柔道整復師に必要な知識や技術とは別の観点での授業を行います。 柔道整復師としてだけでなく、今後社会に出るにあたり必要な人間力を高めるために、一つ一つの授業や課題を通して自分なりに気づきを得てほしいと思います。
----------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	外国語 (A Foreign Language)	必修選択	必修	年次	I	担当教員	マイケル・アーネスト
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	15	開講区分	3学期
コース	昼間 I 部・II 部			(単位)	(I)	曜日・時限	火曜日 2・3限

【授業の学習内容】

来院し、外来受付から各科での受診、検査、治療、会計までの各場面で基本的な英語コミュニケーション力を習得するため、基本語彙や重要表現を「聞いて理解できる」「話すことができる」「読んで理解できる」「書いて表現することができる」ように、座学、ロールプレイ、CDによる音声により学習する。

実務経験:TESOL(英語教授法)の修士号を取得し、2002年～2009年まで英語常勤講師として教育機関にて勤務。2010年より、(株)国際教育社において、専門学校での英語教育(基礎英語、ビジネス英語、医療英語)に携わる。

【到達目標】

臨床現場で直面する様々な状況で使用する英語での医療用語、イディオム、会話表現に慣れる。授業中のアクティビティーを通して、英語ネイティブの患者、顧客、同僚に対応する際に必要な英語のインプット、アウトプット能力を養い、医療の現場で、自信をもって礼儀正しく英語のネイティブの話を聞いたり、返答ができるようになる。翻訳や医療関連資格の取得、研究のための英語文献の使用など、将来、仕事で必要となる医療分野の用語の基本的な翻訳ができるようになる。

授業計画・内容

1回目	患者様の受付に関する英会話を学び話すことができる		
2回目	体内の器官、症状についての英単語を覚え、様々な種類の痛みを話すことができる		
3回目	痛みの症状やどのくらいの期間症状が続いているか、患者様へ症状を尋ねる方法を学び話すことができる		
4回目	問診の方法を学び説明でき、また臓器の英単語を覚え説明できるようになる		
5回目	治療中に、患者様への指示の出し方を学び話すことができる		
6回目	整形外科に関する英会話を学び話すことができ、骨や筋肉の英単語を覚え説明できる		
7回目	総復習を行い、講義内容を理解し説明できる		
8回目	総復習を行い、講義内容を修得する		
準備学習 時間外学習	教科書でわからない単語について調べる。		
評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
受講生への メッセージ	Please actively participate in class. Let's learn how to communicate with and assist foreign patients using English.		

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:医療・福祉英語検定協会「MEDICAL ENGLISH COMMUNICATION」第2版

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	解剖学Ⅰ (AnatomyⅠ)	必修 選択	必修	年次	Ⅰ	担当教員	糟谷 圭吾
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間	90	開講区分	Ⅰ学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・水曜日 2・3限

【授業の学習内容】

柔道整復学の基礎となる人体の生命現象と正常機能をおこなうにあたって必要とされる人体の正常な構造の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。特に 神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の生命維持に不可欠な機能がいかなる構造によって可能となっているかの概念を習得し、本授業終了時には人体の正常な構造について説明ができるようになる。

※実務者経験

1994～1996年 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。1996年～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000年 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟（有病者歯科）における全身管理業務に従事。

【到達目標】

人体解剖学の基本的体系を習得し、人体の正常構造について習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の各種機能をおこなうにあたっての人体の構造を体系的に説明できる。

授業計画・内容

1回目	人体解剖学概論 解剖学用語 について理解し説明できる。		
2回目	細胞および組織 細胞の形態① について理解し説明できる。		
3回目	細胞の形態② DNA 細胞内小器官 について理解し説明できる。		
4回目	細胞周期と細胞分裂 について理解し説明できる。		
5回目	DNA 複製および転写と翻訳 DVD教材 当該範囲の国家試験問題演習		
6回目	組織の分類 上皮組織 支持組織 について理解し説明できる。		
7回目	組織の分類 筋組織 神経組織 について理解し説明できる。		
8回目	発生 生殖細胞 性染色体と性の決定 について理解し説明できる。		
9回目	各組織、器官の発生 について理解し説明できる。		
10回目	器官系統 器官の定義 器官系 について理解し説明できる。		
11回目	人体の区分 区分、細区分、人体の区分線 について理解し説明できる。		
12回目	運動系 骨格系総論 骨の役割 骨の形状による分類 について理解し説明できる。		
13回目	骨の構造 骨の発生と成長 について理解し説明できる。		
14回目	骨表面の形状(性状)についての用語 について理解し説明できる。		
15回目	骨の連結 線維性の連結 軟骨性の連結 滑膜性の連結(狭義の関節)について理解し説明できる。		
準備学習 時間外学習	前もって講義範囲の教科書本文を熟読し疑問点を明確にする。講義および配付資料を補足・充実させ、知識の整理をすること。学習内容に関して不明な点あるいは疑問点があれば、担当教員に質問し、補って下さい。		
評価方法	定期試験(100%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験(100%)にて到達度を評価する。
受講生への メッセージ	正常な人体の構造を学ぶ解剖学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習して欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい		
【使用教科書・教材・参考書】 教科書 全国柔道整復士協会監修 出版 医文堂 解剖学 正常解剖学			

教科書：全国柔道整復学校協会監修 岸 清・石塚 寛編 「解剖学」医歯薬出版
F.H.マティーニ・M.J.ティモンズ・M.P.マッキンリ著 井上貴央監訳 「カラー人体解剖学」西村書店

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	解剖学Ⅰ (AnatomyⅠ)	必修 選択	必修	年次	Ⅰ	担当教員	糟谷 圭吾
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間	90	開講区分	2学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・水曜日 2・3限
【授業の学習内容】							
柔道整復学の基礎となる人体の生命現象と正常機能をおこなうにあたって必要とされる人体の正常な構造の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。特に 神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の生命維持に不可欠な機能がいかなる構造によって可能となっているかの概念を習得し、本授業終了時には人体の正常な構造について説明ができるようになる。							
※実務者経験 1994～1996年 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。1996年～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000年 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟(有病者歯科)における全身管理業務に従事。							
【到達目標】							
人体解剖学の基本的体系を習得し、人体の正常構造について習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の各種機能をおこなうにあたっての人体の構造を体系的に説明できる。							
授業計画・内容							
1回目	骨の連結 脊柱 頸椎 胸椎 について理解し説明できる。						
2回目	骨の連結 脊柱 腰椎 仙骨 尾骨 について理解し説明できる。						
3回目	骨の連結 脊柱の連結 靱帯 について理解し説明できる。						
4回目	胸郭 について理解し説明できる						
5回目	頭蓋 脳頭蓋の構成 について理解し説明できる。						
6回目	頭蓋 顔面頭蓋の構成について理解し説明できる。						
7回目	頭蓋 内頭蓋底 について理解し説明できる。						
8回目	頭蓋 外頭蓋底 について理解し説明できる。						
9回目	頭蓋前面、頭蓋側面 について理解し説明できる。						
10回目	頭蓋泉門 について理解し説明できる。						
11回目	顎関節 について理解し説明できる。頭蓋範囲の総復習						
12回目	脈管系総論 体循環と肺循環 について理解し説明できる。						
13回目	血管の形態と構造 国家試験既習分野解説について理解し説明できる。						
14回目	心臓の位置と形態、構造、弁 について理解し説明できる。						
15回目	心臓壁の構造、刺激伝導系、心臓の脈管、神経について理解し説明できる。						
準備学習 時間外学習	前もって講義範囲の教科書本文を熟読し疑問点を明確にする。講義および配付資料を補足・充実させ、知識の整理をすること。学習内容に関して不明な点あるいは疑問点があれば、担当教員に質問し、補って下さい。						
評価方法	定期試験(100%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験(100%)にて到達度を評価する。				
受講生への メッセージ	正常な人体の構造を学ぶ解剖学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習して欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい						
【使用教科書・教材・参考書】							

教科書：全国柔道整復学校協会監修 岸 清・石塚 寛編 「解剖学」医歯薬出版
F.H.マティーニ・M.J.ティモンズ・M.P.マッキンリ著 井上貴央監訳 「カラー人体解剖学」西村書店

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	解剖学Ⅰ (AnatomyⅠ)	必修 選択	必修	年次	Ⅰ	担当教員	糟谷圭吾
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間	90	開講区分	3学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・水曜日 2・3限
【授業の学習内容】							
柔道整復学の基礎となる人体の生命現象と正常機能をおこなうにあたって必要とされる人体の正常な構造の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。特に 神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の生命維持に不可欠な機能がいかなる構造によって可能となっているかの概念を習得し、本授業終了時には人体の正常な構造について説明ができるようになる。 ※実務者経験 1994～1996年 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。1996年～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000年 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟（有病者歯科）における全身管理業務に従事。							
【到達目標】							
人体解剖学の基本的体系を習得し、人体の正常構造について習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の各種機能をおこなうにあたっての人体の構造を体系的に説明できる。							
授業計画・内容							
1回目	心臓の脈管系の総まとめ						
2回目	動脈系 ① 頭部、頸部の動脈について理解し説明できる。						
3回目	動脈系 ② 胸動脈 について理解し説明できる。						
4回目	動脈系 ③ 腹大動脈 について理解し説明できる。						
5回目	動脈系 ④ 骨盤部の動脈について理解し説明できる。						
6回目	動脈系 ⑤ 下肢の動脈について理解し説明できる。						
7回目	動脈系 ⑥ 動脈系のまとめ						
8回目	静脈系 ① 頭頸部の静脈系 について理解し説明できる。						
9回目	静脈系 ② 上大静脈 について理解し説明できる。						
10回目	静脈系 ③ 下大静脈 ついて理解し説明できる。						
11回目	静脈系 ④ 門脈、骨盤の静脈 について理解し説明できる。						
12回目	胎児循環 について理解し説明できる。						
13回目	リンパ系 リンパ本幹 リンパ性器官 について理解し説明できる。						
14回目	リンパ節の構造 リンパ節の分布 脾臓 胸腺 について理解し説明できる。						
15回目	脈管系 総合演習 柔道整復師国家試験、鍼灸師、あま師国家試験問題演習						
準備学習 時間外学習	前もって講義範囲の教科書本文を熟読し疑問点を明確にする。講義および配付資料を補足・充実させ、知識の整理をすること。学習内容に関して不明な点あるいは疑問点があれば、担当教員に質問し、補って下さい。						
評価方法	定期試験（100％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格		定期試験（100％）にて到達度を評価する。			
受講生への メッセージ	正常な人体の構造を学ぶ解剖学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習していった欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい						
【使用教科書・教材・参考書】							

教科書：全国柔道整復学校協会監修 岸 清・石塚 寛編 「解剖学」医歯薬出版
F.H.マティーニ・M.J.ティモンズ・M.P.マッキンリ著 井上貴央監訳 「カラー人体解剖学」西村書店

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	生理学Ⅰ (PhysiologyⅠ)	必修選択	必修	年次	Ⅰ	担当教員	糟谷 圭吾
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	Ⅰ学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・水・土曜日 2・3限

【授業の学習内容】

柔道整備学の基礎となる人体の生命現象と正常機能およびその体系の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。
特に 神経系、内分泌系による調節機構（ホメオスタシス）、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の生命維持に不可欠な機能についての概念を習得し、本授業終了時には各々の生理学的機能について説明ができるようになる。

※実務者経験

1994～1996年 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。1996年～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000年 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟（有病者歯科）における全身管理業務に従事。

【到達目標】	
--------	--

人体生理学の基本的体系を知り、人体の正常機能についての原則を習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系による調節機構（ホメオスタシス）、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等について網羅的に説明できる。

授業計画・内容	
---------	--

1回目	生理学序論 生理学の基礎 について説明できる
2回目	細胞の機能的構造 細胞膜の構造と機能 について説明できる
3回目	受動輸送 拡散、浸透、ろ過 について説明できる
4回目	受動輸送と能動輸送 膜動輸送 について説明できる
5回目	血液の生理学① 血液の成分と組成 血漿 について説明できる
6回目	血液の生理学② 血液の成分と組成 赤血球 白血球 について説明できる
7回目	血液の生理学③ 血液の成分と組成 血小板 血球の分化 について説明できる
8回目	血液の生理学④ 止血 局所的血管収縮 血小板凝縮 血液凝固 について説明できる
9回目	血液の生理学⑤ 止血 外因系 内因系 フィブリンの形成 プラスミノゲン について説明できる
10回目	血液の生理学⑥ 血液型 ABO式血液型 Rh式血液型 について説明できる
11回目	血液の生理学⑦ 免疫 免疫系器官 免疫担当細胞のはたらき について説明できる
12回目	血液の生理学⑧ 免疫 生体防御 自然免疫 獲得免疫 について説明できる
13回目	体液の生理学① 体液区分 体液の区分と水バランス について説明できる
14回目	体液の生理学② ホメオスタシス 体液の恒常性を維持する仕組み について説明できる
15回目	体液の生理学③ 酸塩基平衡 体液の酸塩基平衡の調節機構 について説明できる

準備学習 時間外学習	(目標①) 前提:この授業を受けるには、生理学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目についての深い考察が必要である。 (目標②) 当該学習項目と関連する解剖学、運動学等の関連領域についての理解を深める。 (目標③) 当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。
---------------	--

評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100~90点 S 89~80点 A 79~70点 B 69~60点 C 59点以下 F不合格	筆記試験100%
------	---	--	----------

受講生への メッセージ	正常な人体の機能、機序を学ぶ生理学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習して欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい。
----------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：南江堂「生理学」第4版

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	生理学Ⅰ (PhysiologyⅠ)	必修選択	必修	年次	Ⅰ	担当教員	糟谷 圭吾
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	2学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・水・土曜日 2・3限

【授業の学習内容】

柔道整復学の基礎となる人体の生命現象と正常機能およびその体系の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。特に神経系、内分泌系による調節機構（ホメオスタシス）、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の生命維持に不可欠な機能についての概念を習得し、本授業終了時には各々の生理学的機能について説明ができるようになる。

※実務者経験

1994～1996年 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。1996年～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000年 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟（有病者歯科）における全身管理業務に従事。

【到達目標】

人体生理学の基本的体系を知り、人体の正常機能についての原則を習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系による調節機構（ホメオスタシス）、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等について網羅的に説明できる。

授業計画・内容	
---------	--

1回目	骨の構造 骨の分類 骨組織の種類 長管骨の構造 について説明できる
2回目	骨の成長 骨の形成過程 について説明できる
3回目	骨形成と骨吸収 について説明できる
4回目	骨のカルシウム代謝の調節 について説明できる
5回目	骨格筋の構造 筋線維 筋原線維 筋の微細構造 筋の結合組織 について説明できる
6回目	骨格筋の収縮と弛緩 筋収縮のしくみ ATPによるエネルギーの供給 について説明できる
7回目	骨格筋の収縮と弛緩 単収縮、収縮の加重と強縮 筋収縮の様式 について説明できる
8回目	骨格筋と張力の関係、筋電図 について説明できる
9回目	心筋の構造と性質 について説明できる
10回目	平滑筋の構造と性質 について説明できる
11回目	神経系の構成要素 について説明できる
12回目	静止膜電位、活動電位 について説明できる
13回目	活動電位の伝導 について説明できる
14回目	シナプスにおける興奮伝達 について説明できる
15回目	神経伝達物質と受容体 について説明できる

準備学習 時間外学習	(目標①) 前提:この授業を受けるには、生理学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目についての深い考察が必要である。 (目標②) 当該学習項目と関連する解剖学、運動学等の関連領域についての理解を深める。 (目標③) 当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。
---------------	--

評価方法	1. 定期試験 (100%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100~90点 S 89~80点 A 79~70点 B 69~60点 C 59点以下 F 不合格	筆記試験 100%
------	--	---	-----------

受講生への メッセージ	正常な人体の機能、機序を学ぶ生理学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習して欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい。
----------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：南江堂「生理学」第4版

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	生理学Ⅰ (Physiology Ⅰ)	必修選択	必修	年次	Ⅰ	担当教員	糟谷 圭吾
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	3学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・水・土曜日 2・3限

【授業の学習内容】

柔道整復学の基礎となる人体の生命現象と正常機能およびその体系の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。

特に 神経系、内分泌系による調節機構（ホメオスタシス）、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の生命維持に不可欠な機能についての概念を習得し、本授業終了時には各々の生理学的機能について説明ができるようになる。

※実務者経験

1994～1996年 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。1996年～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000年 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟(有病者歯科)における全身管理業務に従事。

【到達目標】

人体生理学の基本的体系を知り、人体の正常機能についての原則を習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系による調節機構（ホメオスタシス）、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等について網羅的に説明できる。

	授業計画・内容
--	---------

1回目	神経系の構成 中枢神経系 末梢神経系 について説明できる
2回目	脳の高次機能 脳の構造 大脳皮質の機能局在 について説明できる
3回目	連合野の統合機能 各連合野の機能 言語中枢 について説明できる
4回目	睡眠と覚醒 ノンレム睡眠、レム睡眠 について説明できる
5回目	脳波でみる睡眠 学習と記憶 について説明できる
6回目	内蔵機能の調節 自律神経概論 について説明できる
7回目	自律神経系の構成 について説明できる
8回目	自律神経系による調節 について説明できる
9回目	反射のレベル 運動単位の調節、サイズの原理 について説明できる
10回目	脊髄による反射とその調節 受容器について説明できる
11回目	伸張反射とγ系 誘発筋電図 複雑な反射 について説明できる
12回目	脳幹による運動調節 姿勢調節 について説明できる。
13回目	脳幹による運動調節 歩行、脳幹のよるその他の反射 について説明できる。
14回目	高次運動機能 一次運動野 運動前野、補足運動野 について説明できる。
15回目	高次運動機能 大脳基底核 小脳 運動関連部位間の接続 について説明できる。

準備学習 時間外学習	(目標①) 前提:この授業を受けるには、生理学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目についての深い考察が必要である。 (目標②) 当該学習項目と関連する解剖学、運動学等の関連領域についての理解を深める。 (目標③) 当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。
---------------	--

評価方法	1. 定期試験 (100%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100~90点 S 89~80点 A 79~70点 B 69~60点 C 59点以下 F不合格	筆記試験 100%
------	--	--	-----------

受講生へのメッセージ	正常な人体の機能、機序を学ぶ生理学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習して欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい。
------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：南江堂「生理学」第4版

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	必修選択	必修	年次	Ⅰ	担当教員	杉山 文枝
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	45	開講区分	2学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	水曜日 2・3限

【授業の学習内容】

衛生学・公衆衛生学Ⅰでは、人口統計、国民の健康、予防医学、環境衛生など幅広く国民福祉にかかわる事柄を学習します

※実務経験

1980～2004年杉山歯科医院で歯科診療 2005年～京都医健スポーツ専門学校

2013年～名古屋医健スポーツ専門学校

【到達目標】

柔道整復師としてだけでなく、医療従事者として必要な知識を身に付けることができる。

授業計画・内容

1回目	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動について理解し、説明出来るようになる	16回目	環境問題：温暖化、砂漠化、オゾン層の破壊について理解し、説明出来るようになる
2回目	健康の概念について理解し、説明出来るようになる	17回目	物理的環境要因：暑熱や寒冷の影響について理解し、説明出来るようになる
3回目	健康指標について理解し、説明出来るようになる	18回目	疾病予防と健康管理について理解し、説明出来るようになる
4回目	疾病予防と健康管理について理解し、説明出来るようになる	19回目	気候と疾病について理解し、説明出来るようになる
5回目	感染症とはについて理解し、説明出来るようになる	20回目	騒音について理解し、説明出来るようになる
6回目	ウイルス感染症について理解し、説明出来るようになる	21回目	総まとめを行い、2学期講義内容を説明出来るようになる
7回目	細菌感染症について理解し、説明出来るようになる	22回目	総復習を行い、2学期講義内容を修得する
8回目	その他の感染症について理解し、説明出来るようになる	23回目	総復習を行い、1・2学期講義内容を修得する
9回目	感染症の予防について理解し、説明出来るようになる		
10回目	予防接種について理解し、説明出来るようになる		
11回目	消毒の種類について理解し、説明出来るようになる		
12回目	院内感染の予防について理解し、説明出来るようになる		
13回目	総まとめを行い、1学期講義内容を説明出来るようになる		
14回目	総まとめを行い、1学期講義内容を説明出来るようになる		
15回目	環境とはについて理解し、説明出来るようになる		

準備学習
時間外学習

プリントを使い説明します。板書もするので復習してください。

評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
受講生へのメッセージ	自分で教科書を読んで理解するのは大変なことなのでしっかり授業に参加してください。分からないことはそのままにせず質問してください。	

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：南江堂「衛生学・公衆衛生学」改定第6版

名古屋医健スポーツ専門学校 2024年度 シラバス

科目名 (英)	柔道 (JUDO)	必修選択	必修	年次	I	担当教員	川村 一之
学科	柔道整復科	授業形態	演習	総時間	90	開講区分	I 学期
コース	昼間 I 部・II 部			(単位)	(3)	曜日・時限	火曜2限・3限

【授業の学習内容】

柔道の歴史・柔道場の使い方や掃除のやり方・柔道衣の着方から始め、礼法・受身・形・乱取について学ぶ。柔道における礼節の重要性を学びながら、受身の練習を徹底する事により怪我の予防に心掛ける。また認定実技審査の受験だけが目的ではなく、立技では技の「間合い」、「理合い」を理解し、「崩し」、「作り」、「掛け」を知り、寝技では身体の使い方や抑込まれてからの逃げ方などを学ぶ。乱取においては競技性を追求するのではなく、技の崩しの習得に努める。また、どのような技で投げられても怪我をしない、どのような技で投げても怪我をさせない様に安全事に重点をおく約束乱取を行う。

※実務者経験

2006年柔道整復師免許取得、2011年柔道整復師専科教員免許取得、2006年～2014年まで福岡医健付属慶生整骨院勤務、2014年～2024

【到達目標】

礼節の重要性を理解し、正しい礼法を習得できる。

基本となる受身を身に付け、怪我する事無く、帰宅することができる。

柔道における技の「間合い」、「理合い」を理解し、「崩し」、「作り」、「掛け」を用いて形を実演できる。

格闘技である事・相手が怪我をする可能性がある事を行なっているという自覚を持ち、相手に対する敬意、感謝の気持ちを忘れず、相手を尊重し人間関係を築くことができる。

授業計画・内容	
---------	--

1回目	柔道実技オリエンテーション(柔道場の使い方、評価方法等を説明。柔道実技の必要性、認定実技での柔道について説明)
2回目	柔道について学び、理解する。
3回目	礼法(立礼、坐礼)を学び、修得し柔道の基礎運動、回転運動を実演できる。
4回目	礼法(立礼、坐礼)を学び、習得し実演できる。受身の基礎を学び実演できる。
5回目	受身(前受身、後受身)受身の姿勢を習得し、実演できる。礼法(立礼、坐礼)の復習は随時行い、いつでも実演できる。
6回目	受身(前受身、後受身)受身の姿勢を習得し、実演できる。礼法(立礼、坐礼)の復習は随時行い、いつでも実演できる。
7回目	受身(前受身、後受身、横受身)の姿勢を習得し、実演できる。礼法(立礼、坐礼)の復習は随時行い、いつでも実演できる。
8回目	受身(前受身、後受身、横受身、前回受身)の姿勢を習得し、実演できる。礼法(立礼、坐礼)の復習は随時行い、いつでも実演できる。
9回目	受身(前受身、後受身、横受身、前回受身)の姿勢を習得し、実演できる。礼法(立礼、坐礼)の復習は随時行い、いつでも実演できる。
10回目	前回受身の習得、立技(背負投、大外刈)を習得し、実演できる。礼法(立礼、坐礼)の復習は随時行い、いつでも実演できる。
11回目	前回受身の習得、立技(背負投、大外刈)を習得し、実演できる。礼法(立礼、坐礼)の復習は随時行い、いつでも実演できる。
12回目	1学期の復習、実技試験の説明を行い理解する。
13回目	1学期の復習
14回目	実技試験
15回目	試験解説

柔道実技で自己流の予習は非常に危険なので必要ない。授業で行った内容を必ず次の授業までに柔道場に来て復習する事が大切である。

準備学習 時間外学習			
評価方法	実技試験 ※ケガなどにより実技が出来ない場合は口頭試験を行う場合がある。その場合は最大評価B(79点)で実施	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験 90%出席点 10%

受講生への メッセージ	第1学年の授業で行う柔道は柔道の歴史・柔道場の使い方や掃除のやり方・柔道衣の着方から始め、礼法・受身・乱取について学びます。年齢・性別に関係なく最低限の実力をつけてもらう授業内容であり、強さを求めるものではありません。柔道の素晴らしさを知り、楽しみながら身に付けて下さい。
----------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：南江堂「柔道」

名古屋医健スポーツ専門学校 2024年度 シラバス

科目名 (英)	柔道 (JUDO)	必修選択	必修	年次	I	担当教員	川村 一之
学科	柔道整復科	授業形態	演習	総時間	90	開講区分	2学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	火曜2限・金曜3限

【授業の学習内容】

柔道の歴史・柔道場の使い方や掃除のやり方・柔道衣の着方から始め、礼法・受身・形・乱取について学ぶ。柔道における礼節の重要性を学びながら、受身の練習を徹底する事により怪我の予防に心掛ける。また認定実技審査の受験だけが目的ではなく、立技では技の「間合い」、「理合い」を理解し、「崩し」、「作り」、「掛け」を知り、寝技では身体の使い方や抑込まれてからの逃げ方などを学ぶ。乱取においては競技性を追求するのではなく、技の崩しの習得に努める。また、どのような技で投げられても怪我をしない、どのような技で投げても怪我をさせない様に安全事に重点をおく約束乱取を行う。

※実務者経験

2006年柔道整復師免許取得、2011年柔道整復師専科教員免許取得、2006年～2014年まで福岡医健付属慶生整骨院勤務、2014年～2024

【到達目標】	
--------	--

礼節の重要性を理解し、正しい礼法を習得できる。

基本となる受身を身に付け、怪我する事無く、帰宅することができる。

柔道における技の「間合い」、「理合い」を理解し、「崩し」、「作り」、「掛け」を用いて形を実演できる。

格闘技である事・相手が怪我をする可能性がある事を行なっているという自覚を持ち、相手に対する敬意、感謝の気持ちを忘れず、相手を尊重し人間関係を築くことができる。

授業計画・内容

1回目	1学期の復習と内容確認。1学期の反省点や変更点が有れば伝える。
2回目	前回受身の習得、立技(背負投、大外刈)を習得し、実演できる。礼法(立礼、坐礼)の復習は随時行い、いつでも実演できる。
3回目	前回受身の習得、立技(背負投、大外刈)を習得し、実演できる。礼法(立礼、坐礼)の復習は随時行い、いつでも実演できる。
4回目	前回受身の習得、立技(背負投、大外刈)を習得し、実演できる。礼法(立礼、坐礼)の復習は随時行い、いつでも実演できる。
5回目	立技(背負投、大外刈)を習得し、実演できる。寝技(袈裟固)を習得し、実演できる。礼法(立礼、坐礼)の復習は随時行い、いつでも実演できる。
6回目	立技(背負投、大外刈)を習得し、実演できる。寝技(袈裟固)を習得し、実演できる。礼法(立礼、坐礼)の復習は随時行い、いつでも実演できる。
7回目	立技(背負投、大外刈)を習得し、実演できる。寝技(袈裟固、横四方固)を習得し、実演できる。礼法(立礼、坐礼)の復習は随時行い、いつでも実演できる。
8回目	立技(背負投、大外刈)を習得し、実演できる。寝技(袈裟固、横四方固)を習得し、実演できる。礼法(立礼、坐礼)の復習は随時行い、いつでも実演できる。
9回目	立技(背負投、大外刈)を習得し、実演できる。寝技(袈裟固、横四方固)を習得し、実演できる。礼法(立礼、坐礼)の復習は随時行い、いつでも実演できる。
10回目	立技(背負投、大外刈)を習得し、実演できる。寝技(袈裟固、横四方固)を習得し、実演できる。礼法(立礼、坐礼)の復習は随時行い、いつでも実演できる。
11回目	立技(背負投、大外刈)を習得し、実演できる。寝技(袈裟固、横四方固)を習得し、実演できる。礼法(立礼、坐礼)の復習は随時行い、いつでも実演できる。
12回目	2学期の復習、実技試験の説明を行い理解する。
13回目	2学期の復習
14回目	実技試験
15回目	試験解説

柔道実技で自己流の予習は非常に危険なので必要ない。授業で行った内容を必ず次の授業までに柔道場に来て復習する事が大切である。

準備学習 時間外学習			
評価方法	実技試験 ※ケガなどにより実技が出来ない場合は口頭試験を行う場合がある。その場合は最大評価B(79点)で実施	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験 90%出席点 10%

受講生への メッセージ	第1学年の授業で行う柔道は柔道の歴史・柔道場の使い方や掃除のやり方・柔道衣の着方から始め、礼法・受身・乱取について学びます。年齢・性別に関係なく最低限の実力をつけてもらう授業内容であり、強さを求めるものではありません。柔道の素晴らしさを知り、楽しみながら身に付けて下さい。
----------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：南江堂「柔道」

名古屋医健スポーツ専門学校	2024年度 シラバス
---------------	-------------

科目名 (英)	柔道 (JUDO)	必修選択	必修	年次	I	担当教員	川村 一之
学科	柔道整復科	授業形態	演習	総時間	90	開講区分	3学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	火曜2限・金曜3限

【授業の学習内容】

柔道の歴史・柔道場の使い方や掃除のやり方・柔道衣の着方から始め、礼法・受身・形・乱取について学ぶ。柔道における礼節の重要性を学びながら、受身の練習を徹底する事により怪我の予防に心掛ける。また認定実技審査の受験だけが目的ではなく、立技では技の「間合い」、「理合い」を理解し、「崩し」、「作り」、「掛け」を知り、寝技では身体の使い方や抑込まれてからの逃げ方などを学ぶ。乱取においては競技性を追求するのではなく、技の崩しの習得に努める。また、どのような技で投げられても怪我をしない、どのような技で投げても怪我をさせない様に安全事に重点をおく約束乱取を行う。

※実務者経験

2006年柔道整復師免許取得、2011年柔道整復師専科教員免許取得、2006年～2014年まで福岡医健付属慶生整骨院勤務、2014年～2024

【到達目標】

礼節の重要性を理解し、正しい礼法を習得できる。

基本となる受身を身に付け、怪我する事無く、帰宅することができる。

柔道における技の「間合い」、「理合い」を理解し、「崩し」、「作り」、「掛け」を用いて形を実演できる。

格闘技である事・相手が怪我をする可能性がある事を行なっているという自覚を持ち、相手に対する敬意、感謝の気持ちを忘れず、相手を尊重し人間関係を築くことができる。

授業計画・内容	
1	ガイダンス
2	基礎知識の習得
3	基礎知識の習得
4	基礎知識の習得
5	基礎知識の習得
6	基礎知識の習得
7	基礎知識の習得
8	基礎知識の習得
9	基礎知識の習得
10	基礎知識の習得
11	基礎知識の習得
12	基礎知識の習得
13	基礎知識の習得
14	基礎知識の習得
15	基礎知識の習得
16	基礎知識の習得
17	基礎知識の習得
18	基礎知識の習得
19	基礎知識の習得
20	基礎知識の習得
21	基礎知識の習得
22	基礎知識の習得
23	基礎知識の習得
24	基礎知識の習得
25	基礎知識の習得
26	基礎知識の習得
27	基礎知識の習得
28	基礎知識の習得
29	基礎知識の習得
30	基礎知識の習得
31	基礎知識の習得
32	基礎知識の習得
33	基礎知識の習得
34	基礎知識の習得
35	基礎知識の習得
36	基礎知識の習得
37	基礎知識の習得
38	基礎知識の習得
39	基礎知識の習得
40	基礎知識の習得
41	基礎知識の習得
42	基礎知識の習得
43	基礎知識の習得
44	基礎知識の習得
45	基礎知識の習得
46	基礎知識の習得
47	基礎知識の習得
48	基礎知識の習得
49	基礎知識の習得
50	基礎知識の習得
51	基礎知識の習得
52	基礎知識の習得
53	基礎知識の習得
54	基礎知識の習得
55	基礎知識の習得
56	基礎知識の習得
57	基礎知識の習得
58	基礎知識の習得
59	基礎知識の習得
60	基礎知識の習得
61	基礎知識の習得
62	基礎知識の習得
63	基礎知識の習得
64	基礎知識の習得
65	基礎知識の習得
66	基礎知識の習得
67	基礎知識の習得
68	基礎知識の習得
69	基礎知識の習得
70	基礎知識の習得
71	基礎知識の習得
72	基礎知識の習得
73	基礎知識の習得
74	基礎知識の習得
75	基礎知識の習得
76	基礎知識の習得
77	基礎知識の習得
78	基礎知識の習得
79	基礎知識の習得
80	基礎知識の習得
81	基礎知識の習得
82	基礎知識の習得
83	基礎知識の習得
84	基礎知識の習得
85	基礎知識の習得
86	基礎知識の習得
87	基礎知識の習得
88	基礎知識の習得
89	基礎知識の習得
90	基礎知識の習得
91	基礎知識の習得
92	基礎知識の習得
93	基礎知識の習得
94	基礎知識の習得
95	基礎知識の習得
96	基礎知識の習得
97	基礎知識の習得
98	基礎知識の習得
99	基礎知識の習得
100	基礎知識の習得

1回目	2学期の復習と内容確認。2学期の反省点や変更点が有れば伝える。
2回目	立技を習得し約束乱取が実演できる。礼法（立礼、坐礼）の復習は随時行い、いつでも実演できる。
3回目	立技を習得し約束乱取が実演できる。礼法（立礼、坐礼）の復習は随時行い、いつでも実演できる。
4回目	立技を習得し約束乱取が実演できる。礼法（立礼、坐礼）の復習は随時行い、いつでも実演できる。
5回目	立技を習得し約束乱取が実演できる。礼法（立礼、坐礼）の復習は随時行い、いつでも実演できる。
6回目	立技、寝技を習得し約束乱取が実演できる。礼法（立礼、坐礼）の復習は随時行い、いつでも実演できる。
7回目	立技、寝技を習得し約束乱取が実演できる。礼法（立礼、坐礼）の復習は随時行い、いつでも実演できる。
8回目	立技、寝技を習得し約束乱取が実演できる。礼法（立礼、坐礼）の復習は随時行い、いつでも実演できる。
9回目	立技、寝技を習得し約束乱取が実演できる。礼法（立礼、坐礼）の復習は随時行い、いつでも実演できる。
10回目	礼法、受身の復習を行い、実演ができる。
11回目	立技、寝技の復習を行い、実演できる。
12回目	3学期の復習、実技試験の説明を行い理解する。
13回目	3学期の復習
14回目	実技試験
15回目	試験解説

柔道実技で自己流の予習は非常に危険なので必要ない。授業で行った内容を必ず次の授業までに柔道場に来て復習する事が大切である。

準備学習 時間外学習		
評価方法	実技試験 ※ケガなどにより実技が出来ない場合は口頭試験を行う場合がある。その場合は最大評価B(79点)で実施 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験 90%出席点 10%

受講生への メッセージ	第1学年の授業で行う柔道は柔道の歴史・柔道場の使い方や掃除のやり方・柔道衣の着方から始め、礼法・受身・乱取について学びます。年齢・性別に関係なく最低限の実力をつけてもらう授業内容であり、強さを求めるものではありません。柔道の素晴らしさを知り、楽しみながら身に付けて下さい。
----------------	--

	(使用教科書・教材・参考書)

教科書：南江堂「柔道」

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	職業倫理 (Professional ethics)	必修選 択	必修	年次	I	担当教員	嶋田 征矢
学科	柔道整復科	授業形 態	演習	総時間	I 5	開講区分	I 学期
コース	昼間 I 部・II 部			(単位)	(I)	曜日・時限	火曜日 I・4限

【授業の学習内容】

言動や行動に医療従事者としての自覚を持つことが大切である。職業倫理を理解することにより、授業の中でプロフェッショナルの倫理観を学び、ケース別の対応についてディスカッションを通して他者の気持ちを理解し、適切な対応方法を見つけていく。

※実務経験

平成28年～平成31年(令和元年)まで 整形外科、接骨院、介護施設に勤務。

柔道整復專科教員免許取得教員

【到達目標】

医療従事者としての倫理を理解することができ、職業倫理を通して他者とコミュニケーションを取ることができる。他者の考えを聞くことにより、他者の気持ちを理解でき、適切な言動・行動ができるようになる。

授業計画・内容

1回目	柔道整復師に必要な倫理観を学び、理解し説明できる		
2回目	柔道整復師の社会的役割・責任について理解し説明できる		
3回目	医療従事者としての守秘義務、個人情報の取り扱いについて理解し説明できる		
4回目	患者への対応について理解し説明できる		
5回目	ケース別の対応方法を学び、説明できる ①		
6回目	ケース別の対応方法を学び、説明できる ②		
7回目	ケース別の対応方法を学び、説明できる ③		
8回目	第1～7回までの総復習を行い、知識を深め説明できる		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習 時間外学習	①教科書をベースに授業を進めていきます。一度、目を通してみましょう。 ②テレビや新聞でも倫理について話題にしている事が多くあります。まずは興味を持ちましょう。		
評価方法	1. 定期試験 (50%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (50%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験50% レポート50% ※出席数・欠席数を評価に加味する
受講生への メッセージ	一般的な「職業」とは「倫理」とは、そして柔道整復師にとっての「職業倫理」について学んでいきましょう。医療従事者の対象は「人」です。患者様と良好な信頼関係を構築できるように、ディスカッションなどを通して倫理観を養っていきましょう。		

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 医歯薬出版株式会社「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	社会保障制度 (Social security system)	必修選 択	必修	年次	I	担当教員	嶋田 征矢
学科	柔道整復科	授業形 態	演習	総時間	15	開講区分	I 学期
コース	昼間 I 部・II 部			(単位)	(I)	曜日・時限	木曜日 2・3限

【授業の学習内容】

「社会保障」を中心に医療保険制度、柔道整復療養費などを学び、知識を理解し修得する。

※実務経験

平成28年～平成31年(令和元年)まで 整形外科、接骨院、介護施設に勤務。

柔道整復専科教員免許取得教員

【到達目標】

社会保険制度を学び、社会資源を最大限に活用することができる。医療保険制度を学び、柔道整復師の療養費について説明することができる。

授業計画・内容

1回目	社会保障制度について理解し説明できる
2回目	医療保険制度、保険診療について理解し説明できる
3回目	医療保険の財政、診療報酬制度について理解し説明できる
4回目	柔道整復師の療養費について理解し説明できる
5回目	療養費の算定について理解し説明できる
6回目	療養費請求のケーススタディを行い、理解し説明できる①
7回目	療養費請求のケーススタディを行い、理解し説明できる②
8回目	今までの総復習総復習を行い、より意識を深め修得できる
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

- 準備学習
時間外学習
- ①基礎的な社会保障などの情報は新聞やテレビなどでも発信されていますので、興味を持ちましょう。
 - ②授業で学んだことを忘れないように、復習は欠かせない事。
 - ③自分なりに分かりやすくノートまとめをすること。

評価方法	1. 定期試験 (50%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (50%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験50% レポート50% ※出席数・欠席数を評価に加味する
------	---	--	--

受講生への
メッセージ

柔道整復師には開業権があり、将来、開業する際に社会保障制度・医療保険制度は重要になってきます。知識を深め理解しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：医歯薬出版株式会社「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」

名古屋医健スポーツ専門学校 2024年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復学 I (Judo Therapy I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	坂口 聡
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 (3)	開講区分	1学期
コース	昼間 I 部・II 部					曜日・時限	月・水曜日 1・4限目

【授業の学習内容】

柔道整復師または医療従事者、スポーツトレーナー等として必要な柔道整復学、基礎医学の基本的な知識の習得を目的として授業を行う。具体的に柔道整復師の業務範囲である急性外傷の基本的知識の習得と柔道整復師の行う業務内容の理解、骨折、脱臼、打撲、捻挫等の総論、および外傷性疾患の評価、指導管理等を学び、柔道整復師の総論(総合)的理解を深める。

※整形外科医院・接骨院で勤務(主業務:疾患や外傷に対する後療法)

※平成25年10月:柔道整復師専科教員免許を取得

※平成30年10月:介護支援専門員の免許を取得

【到達目標】

柔道整復師の資格の理解(業務範囲等)、柔道整復師の沿革、外力の理解、(人体に加わる力等)、骨折総論、脱臼総論、関節損傷の総論、筋損傷の総論、腱損傷の総論、神経損傷の総論、医療面接(診察)、治療法の総論、外傷予防の基本的考えについて主に理論を中心に理解することを目的とする。

目標Ⅰ:①業務範囲を説明できる。②損傷時の力を説明できる。③骨折の定義等骨折の概要を説明できる。④脱臼等の関節損傷全般の概要を説明できる。⑤筋損傷等の軟部組織損傷全般の概要を説明できる。

目標Ⅱ:①医療面接の基本的考えを説明できる。②医療面接の主な内容を説明できる。③医療面接の進め方を説明できる。④治療法(後療法)の概要を説明できる。⑤外傷予防の基本的概要を説明できる。

授業計画・内容

1回目	概論、柔道整復師の沿革 柔道整復術、業務範囲とその心得について理解し説明できる。		
2回目	人体に加わる力、損傷に関する身体の基礎的状态、損傷時に加わる力について理解し説明することができる。		
3回目	解剖：骨の形態・機能について理解し説明することができる。		
4回目	骨損傷の概説：骨折の性状・程度・骨折線の方法による分類について理解し説明することができる。		
5回目	骨損傷の概説：骨折の創部との交通の有無・外力の働き方による分類について理解し説明することができる。		
6回目	骨折の症状：一般症状・全身症状について理解し説明することができる。		
7回目	骨折の症状：固有症状について理解し説明することができる。		
8回目	骨折の合併症：併発症・続発症について理解し説明することができる。		
9回目	骨折の合併症：後遺症について理解し説明することができる。		
10回目	小児骨折の特徴①（S-H分類、治療上の注意と目標など）について理解し説明することができる。		
11回目	小児骨折の特徴②（S-H分類、治療上の注意と目標など）について理解し説明することができる。		
12回目	高齢者骨折の特徴（治療上の注意と目標など）について理解し説明することができる。		
13回目	骨折の癒合日数・治療過程（治療に影響を与える因子）について理解し説明することができる。		
14回目	これまでに学習した内容の演習問題を行いより深い理解と対応できるように習得する。		
15回目	これまでの学習した内容を図示し、ワークを行いより深い説明ができるように習得する。		
準備学習 時間外学習	柔道整復理論を理解するには毎授業後の復習は必ず必要となる。復習の方法の1つとして、配布プリントを参考にしながら教科書を読み教科書にもアンダーラインやメモを記入し、理解できなかった箇所を記録し次の講義にて質問すること。その際、各自でインターネットや参考書等を利用して調べて各自の見解を用意してあることが望ましい。		
評価方法	1. 定期試験90（％） 2. 小テスト（％） 3. レポート（％） 4. 課題成果10（％） 5. 実地試験（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	1年生基礎レベル～国家試験に対応できるレベルの試験を3回実施。 ●定期試験100％で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	柔道整復学を習得することによって、外傷に対する治療法だけでなく、外傷予防、健康増進、介護予防法等様々な分野でその応用が可能となってきます。柔道整復師には大きな可能性があることを理解しましょう。また、本科目は各論の基盤となる部分であり、総論の理解が各論の理解に繋がる。専門用語も多いので、インターネットや辞書などを活用し意味を主体的に調べることも必要である。配布プリントの量も多いので必ずファイルで管理するようにすること		
【使用教科書・教材・参考書】 南江堂「柔道整復学・理論編」改訂第7版、配布プリント			

名古屋医健スポーツ専門学校 2024年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復学 I (Judo Therapy I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	坂口 聡
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 (3)	開講区分	2学期
コース	昼間 I 部・II 部					曜日・時限	月曜日 1・4限目

【授業の学習内容】

柔道整復師または医療従事者、スポーツトレーナー等として必要な柔道整復学、基礎医学の基本的な知識の習得を目的として授業を行う。具体的に柔道整復師の業務範囲である急性外傷の基本的知識の習得と柔道整復師の行う業務内容の理解、骨折、脱臼、打撲、捻挫等の総論、および外傷性疾患の評価、指導管理等を学び、柔道整復師の総論(総合)的理解を深める。

※整形外科医院・接骨院で勤務(主業務:疾患や外傷に対する後療法)

※平成25年10月:柔道整復師専科教員免許を取得

※平成30年10月:介護支援専門員の免許を取得

【到達目標】

柔道整復師の資格の理解(業務範囲等)、柔道整復師の沿革、外力の理解、(人体に加わる力等)、骨折総論、脱臼総論、関節損傷の総論、筋損傷の総論、腱損傷の総論、神経損傷の総論、医療面接(診察)、治療法の総論、外傷予防の基本的考えについて主に理論を中心に理解することを目的とする。

目標Ⅰ:①業務範囲を説明できる。②損傷時の力を説明できる。③骨折の定義等骨折の概要を説明できる。④脱臼等の関節損傷全般の概要を説明できる。⑤筋損傷等の軟部組織損傷全般の概要を説明できる。

目標Ⅱ:①医療面接の基本的考えを説明できる。②医療面接の主な内容を説明できる。③医療面接の進め方を説明できる。④治療法(後療法)の概要を説明できる。⑤外傷予防の基本的概要を説明できる。

授業計画・内容

1回目	関節の構造と機能について理解し説明することができる。
2回目	筋・靱帯の補助装置について理解し説明することができる。
3回目	関節の損傷(靱帯損傷)について理解し説明することができる。
4回目	軟骨損傷、関節構成組織の損傷について理解し説明することができる。
5回目	脱臼①(定義)について理解し説明することができる。
6回目	脱臼②(合併症)②について理解し説明することができる。
7回目	脱臼③(整復障害、予後)について理解し説明することができる。
8回目	筋の構造と機能について理解し説明することができる。
9回目	筋損傷①(筋損傷の概説、分類、症状)について理解し説明することができる。
10回目	筋損傷②(肉離れの総論)、治癒機序、初期処置について理解し説明することができる。
11回目	筋損傷③(治癒機序、初期処置、予後)について理解し説明することができる。
12回目	腱損傷①(機能と構造、分類)について理解し説明することができる。
13回目	腱損傷②(症状、治癒機序)について理解し説明することができる。
14回目	これまでに学習した内容の演習問題を行いより深い理解と対応できるように習得する。
15回目	これまでの学習した内容を図示し、ワークを行いより深い説明ができるように習得する。

準備学習
時間外学習
柔道整復理論を理解するには毎授業後の復習は必ず必要となる。復習の方法の1つとして、配布プリントを参考にしながら教科書を読み教科書にもアンダーラインやメモを記入し、理解できなかった箇所を記録し次回の講義にて質問すること。その際、各自でインターネットや参考書等を利用して調べて各自の見解を用意してあることが望ましい。

評価方法	1. 定期試験90(%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果10(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100~90点 S 89~80点 A 79~70点 B 69~60点 C 59点以下 F不合格	1年生基礎レベル~国家試験に対応できるレベルの試験を3回実施。 ●定期試験100%で成績評価を行う。
------	--	--	---

受講生への
メッセージ
柔道整復学を習得することによって、外傷に対する治療法だけでなく、外傷予防、健康増進、介護予防法等様々な分野でその応用が可能となってきます。柔道整復師には大きな可能性があることを理解しましょう。また、本科目は各論の基盤となる部分であり、総論の理解が各論の理解に繋がる。専門用語も多いので、インターネットや辞書などを活用し意味を主体的に調べることも必要である。配布プリントの量も多いので必ずファイルで管理するようにすること

【使用教科書・教材・参考書】

南江堂「柔道整復学・理論編」改訂第7版、配布プリント

名古屋医健スポーツ専門学校 2024年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復学 I (Judo Therapy I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	坂口 聡
学科	柔道整復科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 (3)	開講区分	3学期
コース	昼間 I 部・II 部					曜日・時限	月曜日 1・4限目
【授業の学習内容】 柔道整復師または医療従事者、スポーツトレーナー等として必要な柔道整復学、基礎医学の基本的な知識の習得を目的として授業を行う。具体的に柔道整復師の業務範囲である急性外傷の基本的知識の習得と柔道整復師の行う業務内容の理解、骨折、脱臼、打撲、捻挫等の総論、および外傷性疾患の評価、指導管理等を学び、柔道整復師の総論(総合)的理解を深める。 ※整形外科医院・接骨院で勤務(主業務:疾患や外傷に対する後療法) ※平成25年10月:柔道整復師専科教員免許を取得 ※平成30年10月:介護支援専門員の免許を取得							
【到達目標】 柔道整復師の資格の理解(業務範囲等)、柔道整復師の沿革、外力の理解、(人体に加わる力等)、骨折総論、脱臼総論、関節損傷の総論、筋損傷の総論、腱損傷の総論、神経損傷の総論、医療面接(診察)、治療法の総論、外傷予防の基本的考えについて主に理論を中心に理解することを目的とする。 目標Ⅰ:①業務範囲を説明できる。②損傷時の力を説明できる。③骨折の定義等骨折の概要を説明できる。④脱臼等の関節損傷全般の概要を説明できる。⑤筋損傷等の軟部組織損傷全般の概要を説明できる。 目標Ⅱ:①医療面接の基本的考えを説明できる。②医療面接の主な内容を説明できる。③医療面接の進め方を説明できる。④治療法(後療法)の概要を説明できる。⑤外傷予防の基本的概要を説明できる。							

授業計画・内容			
1回目	神経損傷①(機能と構造、損傷の分類)について理解し説明することができる。		
2回目	神経損傷②(症状、治癒過程)について理解し説明することができる。		
3回目	医療面接について理解し説明することができる		
4回目	後療法(手技療法)について理解し説明することができる。		
5回目	後療法(運動療法)について理解し説明することができる。		
6回目	指導管理(概要、注意事項)について理解し説明することができる。		
7回目	指導管理(具体例を示し、グループワークを行う)について理解し説明することができる。		
8回目	①骨折編:各論と総論を結びつけ、深い理解と対応できるように習得する。		
9回目	②骨折編:各論と総論を結びつけ、深い理解と対応できるように習得する。		
10回目	①脱臼編:各論と総論を結びつけ、深い理解と対応できるように習得する。		
11回目	②脱臼編:各論と総論を結びつけ、深い理解と対応できるように習得する。		
12回目	①捻挫編:各論と総論を結びつけ、深い理解と対応できるように習得する。		
13回目	①筋損傷編:各論と総論を結びつけ、深い理解と対応できるように習得する。		
14回目	①神経損傷編:各論と総論を結びつけ、深い理解と対応できるように習得する。		
15回目	2年次に向けて、応用・発展問題に対応できるように習得する。		
準備学習 時間外学習	柔道整復理論を理解するには毎授業後の復習は必ず必要となる。復習の方法の1つとして、配布プリントを参考にしながら教科書を読み教科書にもアンダーラインやメモを記入し、理解できなかった箇所を記録し次回の講義にて質問すること。その際、各自でインターネットや参考書等を利用して調べて各自の見解を用意してあることが望ましい。		
評価方法	1. 定期試験90(%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果10(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	1年生基礎レベル～国家試験に対応できるレベルの試験を3回実施。 ●定期試験100%で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	柔道整復学を習得することによって、外傷に対する治療法だけでなく、外傷予防、健康増進、介護予防法等様々な分野でその応用が可能となってきます。柔道整復師には大きな可能性があることを理解しましょう。また、本科目は各論の基盤となる部分であり、総論の理解が各論の理解に繋がる。専門用語も多いので、インターネットや辞書などを活用し意味を主体的に調べることも必要である。配布プリントの量も多いので必ずファイルで管理するようにすること		
【使用教科書・教材・参考書】 南江堂「柔道整復学・理論編」改訂第7版、配布プリント			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	柔道整復学Ⅱ (Judo TherapyⅡ)	必修選 択	必修	年次	I	担当教員	嶋田 征矢
学科	柔道整復科	授業形 態	講義	総時間	90	開講区分	I 学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	火・水・木曜日 2・4限
【授業の学習内容】							
上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷について学習する。各論になるので、各外傷・障害の発生機序、症状、転位と変形、鑑別診断、合併症、続発症、後遺症、整復、固定、後療法についてその特徴を学習していく。特徴を把握するには、解剖学的知識特に運動器の構造を理解している必要があるため、運動器についても学習していく。 ※実務経験 平成28年～平成31年(令和元年)まで 整形外科、接骨院、介護施設に勤務。 柔道整復専科教員免許取得教員							
【到達目標】							
上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷について、発生機序、症状、転位と変形、鑑別診断、合併症、続発症、後遺症、整復、固定、後療法の特徴を理解し、説明することができる。							
授業計画・内容							
1回目	鎖骨部の機能と解剖、骨折の定義について説明できる						
2回目	鎖骨骨折(成人)の発生機序、転位、症状、合併症について説明できる						
3回目	鎖骨骨折(整復法、固定法、後遺症)について説明できる						
4回目	関節の仕組み、脱臼の定義を説明できる						
5回目	鎖骨の脱臼について理解し、説明できる						
6回目	胸鎖関節、肩鎖関節(分類・発生機序・症状・合併症)について説明できる						
7回目	肩関節部の解剖と機能について説明できる						
8回目	肩甲骨(関節窩、頸部、肩峰、烏口突起)の骨折について説明できる						
9回目	上腕骨近位部(骨頭、解剖頸)の骨折について説明できる						
10回目	上腕骨近位部(外科頸)の骨折(概説、発生機序、症状)について説明できる						
11回目	上腕骨近位部(外科頸)の骨折(合併症、鑑別診断)について説明できる						
12回目	上腕骨近位部(外科頸)の骨折(整復法・固定法・後療法・予後)について説明できる						
13回目	大結節単独骨折、小結節単独骨折、近位骨端線離開について説明できる						
14回目	鎖骨、肩甲骨の外傷について分類し、説明できる						
15回目	上腕骨近位端の骨折について分類し、説明できる						
準備学習 時間外学習	この授業を受けるには、解剖学、生理学などの基礎医学の知識が必要です。また、柔道整復学の総論の理解がなければ、どのような外傷で特に注意が必要かも分からなくなります。これらの予習を行い授業に臨むようにして下さい。また、理解を深めるために、復習を欠かさないで下さい。						
評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格		筆記試験100%			
受講生への メッセージ	柔道整復師になるにはまず国家試験合格が必要で、特に柔道整復学は出題数も多く、重要な科目です。また、実際に患者さんと接するには、身体の仕組みを理解した上で、なぜこの外傷が起こったのか、どのように治っていくのかを説明する必要があります。そのためこの科目は避けて通れない教科です。患者さんを治せるようにしっかりと理解し説明ができるように勉強して下さい。						
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書:柔道整復学理論編第7版(南江堂)、柔道整復学実技編第2版(南江堂)※実技編は必要な時のみ配布資料							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	柔道整復学Ⅱ (Judo TherapyⅡ)	必修選 択	必修	年次	I	担当教員	嶋田 征矢
学科	柔道整復科	授業形 態	講義	総時間	90	開講区分	2学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	火・水・木曜日 2・4限
【授業の学習内容】							
上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷について学習する。各論になるので、各外傷・障害の発生機序、症状、転位と変形、鑑別診断、合併症、続発症、後遺症、整復、固定、後療法についてその特徴を学習していく。特徴を把握するには、解剖学的知識特に運動器の構造を理解している必要があるため、運動器についても学習していく。 ※実務経験 平成28年～平成31年(令和元年)まで 整形外科、接骨院、介護施設に勤務。 柔道整復専科教員免許取得教員							
【到達目標】							
上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷について、発生機序、症状、転位と変形、鑑別診断、合併症、続発症、後遺症、整復、固定、後療法の特徴を理解し、説明することができる。							
授業計画・内容							
1回目	肩関節の機能・解剖、肩関節脱臼（発生頻度型回理由・分類）について説明できる						
2回目	肩関節前方脱臼（概説・発生機序・症状・合併症）について説明できる						
3回目	肩関節後方脱臼、肩関節下方脱臼、肩関節上方脱臼について説明できる						
4回目	反復性肩関節脱臼について説明できる						
5回目	小テスト、肩関節部の軟部組織損傷（腱板断裂）について説明できる						
6回目	肩関節部の軟部組織損傷（上腕二頭筋長頭腱損傷）について説明できる						
7回目	肩関節部のスポーツ損傷について説明できる						
8回目	肩関節部の軟部組織損傷（肩甲上神経絞扼障害・腋窩神経絞扼障害・五十肩）について説明できる						
9回目	石灰沈着性腱炎、変形性肩関節症について説明できる						
10回目	小テスト、上腕部の解剖と機能、上腕骨骨幹部骨折（概説・発生機序）について説明できる						
11回目	上腕骨骨幹部骨折（症状、合併症、転位）について説明できる						
12回目	上腕骨骨幹部骨折（整復法・固定法・後療法・後遺症・予後）について説明できる						
13回目	上腕部の軟部組織損傷（橈骨神経損傷・尺骨神経損傷）について説明できる、小テスト						
14回目	肩関節の脱臼について分類し説明できる。						
15回目	上腕部の損傷について分類し説明できる。						
準備学習 時間外学習	この授業を受けるには、解剖学、生理学などの基礎医学の知識が必要です。また、柔道整復学の総論の理解がなければ、どのような外傷で特に注意が必要かも分からなくなります。これらの予習を行い授業に臨むようにして下さい。また、理解を深めるために、復習を欠かさないで下さい。						
評価方法	1. 定期試験（100％） 2. 小テスト（％） 3. レポート（％） 4. 課題成果（％） 5. 実地試験（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格		筆記試験100％			
受講生への メッセージ	柔道整復師になるにはまず国家試験合格が必要で、特に柔道整復学は出題数も多く、重要な科目です。また、実際に患者さんと接するには、身体の仕組みを理解した上で、なぜこの外傷が起こったのか、どのように治っていくのかを説明する必要があります。そのためこの科目は避けて通れない教科です。患者さんを治せるようにしっかりと理解し説明ができるように勉強して下さい。						
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書：柔道整復学理論編第7版（南江堂）、柔道整復学実技編第2版（南江堂）※実技編は必要な時のみ配布資料							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復学Ⅱ (Judo TherapyⅡ)	必修選択	必修	年次	I	担当教員	嶋田 征矢
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	3学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	火・水・木曜日 2・4限

【授業の学習内容】

上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷について学習する。各論になるので、各外傷・障害の発生機序、症状、転位と変形、鑑別診断、合併症、続発症、後遺症、整復、固定、後療法についてその特徴を学習していく。特徴を把握するには、解剖学的知識特に運動器の構造を理解している必要があるため、運動器についても学習していく。

※実務経験

平成28年～平成31年(令和元年)まで 整形外科、接骨院、介護施設に勤務。

柔道整復專科教員免許取得教員

【到達目標】

上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷について、発生機序、症状、転位と変形、鑑別診断、合併症、続発症、後遺症、整復、固定、後療法の特徴を理解し、説明することができる。

授業計画・内容

1回目	肘関節の機能・解剖、損傷について説明できる
2回目	上腕骨遠位部（顆上）骨折（発生機序および分類・骨折線と骨片転位・症状・合併症）について説明できる
3回目	上腕骨遠位部（顆上）骨折（整復前の注意・整復法・固定法・X線像・後療法・後遺症）について説明できる
4回目	小児の肘関節部の解剖、上腕骨遠位部（顆上）骨折（特徴）について説明できる
5回目	上腕骨遠位部（顆上以外）骨折（発生機序および分類・骨折線と骨片転位・症状・合併症）について説明できる
6回目	上腕骨遠位部（顆上以外）骨折（整復前の注意・整復法・固定法・X線像・後療法・後遺症）について説明できる
7回目	前腕近位部の骨折（発生機序および分類・骨折線と骨片転位・症状・合併症）について説明できる
8回目	前腕近位部の骨折（整復前の注意・整復法・固定法・X線像・後療法・後遺症）について説明できる
9回目	肘関節の脱臼（概説・発生機序・症状・合併症）について説明できる
10回目	肘内障（概説・発生機序・症状・整復法）について説明できる
11回目	肘関節部の軟部組織損傷（靱帯損傷）について説明できる
12回目	肘関節部の軟部組織損傷（靱帯損傷以外）について説明できる
13回目	上腕遠位端部の骨折について分類し、説明できる
14回目	肘関節の脱臼、軟部組織損傷について分類し、説明できる
15回目	上肢（鎖骨～肘関節）の損傷に対し、それぞれの特徴を説明できる

準備学習 時間外学習	この授業を受けるには、解剖学、生理学などの基礎医学の知識が必要です。また、柔道整復学の総論の理解がなければ、どのような外傷で特に注意が必要かも分からなくなります。これらの予習を行い授業に臨むようにして下さい。また、理解を深めるために、復習を欠かさないで下さい。
---------------	--

評価方法	1. 定期試験 (100%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	筆記試験 100%
------	--	---	-----------

受講生への メッセージ	柔道整復師になるにはまず国家試験合格が必要で、特に柔道整復学は出題数も多く、重要な科目です。また、実際に患者さんと接するには、身体の仕組みを理解した上で、なぜこの外傷が起こったのか、どのように治っていくのかを説明する必要があります。そのためこの科目は避けて通れない教科です。患者さんを治せるようにしっかりと理解し説明ができるように勉強して下さい。
----------------	--

【使用教科書・教材・参考書】
教科書：基礎数学Ⅰ（上）（中）（下）（東京大学出版会）
参考書：基礎数学Ⅰ（上）（中）（下）（東京大学出版会）
参考書：基礎数学Ⅰ（上）（中）（下）（東京大学出版会）

教科書：柔道整復学理論編第7版（南江堂）、柔道整復学実技編第2版（南江堂）※実技編は必要な時のみ配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校 2024年度 シラバス							
科目名 (英)	柔道整復学Ⅲ (Juso Therapy Ⅲ)	必修選 択	必修	年次	I	担当教員	嶋田 征矢
学科	柔道整復科	授業形 態	講義	総時間	30	開講区分	I 学期
コース	I 部・Ⅱ 部			(単位)	(I)	曜日・時限	木・土曜日 2・3限
【授業の学習内容】							
上肢の軟部組織損傷を柔道整復理論だけの観点から見るのではなく、解剖学の知識も含め「なぜ発生するのか」「なぜそのような症状が見られるのか」を学んでいきます。また、暗記等で覚えるのではなく臨床現場へ出た際に患者さんに対して十分な説明ができるようにしていきます。 ※実務経験 平成28年～平成31年(令和元年)まで 整形外科、接骨院、介護施設に勤務。 柔道整復専科教員免許取得教員							
【到達目標】							
解剖学的知識も踏まえ、各損傷について説明ができるようになる。							
授業計画・内容							
I 回目	肩関節の機能解剖、腱板損傷①について理解し説明できる						
2回目	腱板損傷②についてさらに理解を深め理解し説明できる						
3回目	上腕二頭筋長頭腱損傷、ベネット損傷について理解し説明できる						
4回目	SLAP損傷について理解し説明できる						
5回目	肩峰下インピンジメント症候群について理解し説明できる						
6回目	リトルリーガー肩について理解し説明できる						
7回目	動揺性肩関節、五十肩①について理解し説明できる						
8回目	五十肩②について理解し説明できる 肩関節軟部組織損傷の総復習						
9回目	肘関節の機能解剖、側副靱帯損傷について理解し説明できる						
10回目	野球肘①について理解し説明できる						
11回目	野球肘②について理解し説明できる						
12回目	テニス肘、パンナー病について理解し説明できる						
13回目	肘関節軟部組織損傷の総復習						
14回目	肩関節・肘関節軟部組織損傷の総復習①を行い、さらに理解を深め説明できる						
15回目	肩関節・肘関節軟部組織損傷の総復習②を行い、さらに理解を深め説明できる						
準備学習 時間外学習	単に発生機序や症状を覚えるだけでなく、解剖学的知識を踏まえて授業を行います。事前に肩関節・肘関節の機能解剖を復習しておくこと。また、授業内だけの学習ではなくアウトプットできるように復讐をしてください。						
評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格		筆記試験100%			
受講生への メッセージ	この授業では柔道整復師として臨床現場へ出た際、遭遇する機会の多い外傷を学んでいきます。また、国家試験の出題も多くあります。集中して授業に取り組んでください。						
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書:柔道整復学理論編第7版(南江堂)、柔道整復学実技編第2版(南江堂)							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス						

科目名 (英)	基礎柔道整復実技Ⅰ (Basic Judo Therapeutic LabⅠ)	必修 選択	必修	年次	Ⅰ	担当教員	東條 愛由美
学科	柔道整復科	授業 形態	講義・演習	総時間	90	開講区分	Ⅰ学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	金曜日 Ⅰ・4限

【授業の学習内容】

① 柔道整復理論の基礎である運動器の解剖を学習する。運動器の基礎を学ぶことで骨折・脱臼・軟部組織損傷の理解力を向上させる。また、国家試験において、解剖学や運動学で出題される運動器の問題に対応できるように学習する。

② 学習方法として、講義形式と体表解剖（触診）を交えながら行うことで、よりイメージできるように学習する。

※平成31(令和元年)～令和5年:整形外科、鍼灸院、整骨院に勤務
令和6年:柔道整復師専科教員免許取得

【到達目標】	
--------	--

目標Ⅰ：上肢骨・下肢骨の骨の名称、構造を理解・説明できる。
目標Ⅱ：胸部・背部・四肢の筋の起始・停止・作用・支配神経を理解・説明できる。
目標Ⅲ：骨のランドマークの触診ができる。

授業計画・内容

1回目	全身骨格ついて理解し説明できるようにする
2回目	(骨学)上肢骨全体の構造・部位名所を理解し、説明できる。
3回目	(骨学)鎖骨・肩甲骨の構造・部位名所を理解し、説明できる。
4回目	(骨学)上腕骨の構造・部位名所を理解し、説明できる。
5回目	(骨学)橈骨の構造・部位名所を理解し、説明できる。
6回目	(骨学)尺骨の構造・部位名所を理解し、説明できる。
7回目	(骨学)手指の構造・部位名所を理解し、説明できる。
8回目	(骨学)下肢骨全体の構造・部位名所を理解し、説明できる。
9回目	(骨学)寛骨の構造・部位名所を理解し、説明できる。
10回目	(骨学)骨盤の構造・部位名所を理解し、説明できる。
11回目	(骨学)大腿骨の構造・部位名所を理解し、説明できる。
12回目	(骨学)脛骨の構造・部位名所を理解し、説明できる。
13回目	(骨学)腓骨の構造・部位名所を理解し、説明できる。
14回目	(骨学)足部の構造・部位名所を理解し、説明できる。
15回目	1学期の総復習を行い、より知識を深め習得する

準備学習 時間外学習	事前学習と講義の復習を必ず行うこと。 暗記することも重要なのでコツコツで暗記すること。 毎回、課題・確認テストを行います。
---------------	--

評価方法	1. 定期試験 (80%) 2. 小テスト (20%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
------	---	---	--

受講生への	柔道整復師として施術を行うためには、骨格系・筋系の知識がなければ施術はできません。臨床現場で信頼される柔道整復師となるためには、言葉だけの知識ではなく、立体的に説明できることが大事となります。日々の学習を怠らないようにして下さい。
-------	---

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:医歯薬出版株式会社「解剖学」、配布プリント

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	基礎柔道整復実技Ⅰ (Basic Judo Therapeutic LabⅠ)	必修 選択	必修	年次	Ⅰ	担当教員	東條 愛由美
学科	柔道整復科	授業 形態	講義・演習	総時間	90	開講区分	2学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	金曜日 1・4限

【授業の学習内容】

① 柔道整復理論の基礎である運動器の解剖を学習する。運動器の基礎を学ぶことで骨折・脱臼・軟部組織損傷の理解力を向上させる。また、国家試験において、解剖学や運動学で出題される運動器の問題に対応できるように学習する。

② 学習方法として、講義形式と体表解剖（触診）を交えながら行うことで、よりイメージできるように学習する。

※平成31(令和元年)～令和5年:整形外科、鍼灸院、整骨院に勤務
令和6年:柔道整復師専科教員免許取得

【到達目標】

目標Ⅰ：上肢骨・下肢骨の骨の名称、構造を理解・説明できる。
目標Ⅱ：胸部・背部・四肢の筋の起始・停止・作用・支配神経を理解・説明できる。
目標Ⅲ：骨のランドマークの触診ができる。

授業計画・内容

1回目	関節の運動・形状を理解し、説明できる。
2回目	(筋学) 胸部の筋・背筋の筋①: 起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
3回目	(筋学) 胸部の筋・背筋の筋②: 起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
4回目	(筋学) 上肢帯①: 筋の起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
5回目	(筋学) 上肢帯②: 筋の起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
6回目	(筋学) 上腕の筋①: 筋の起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
7回目	(筋学) 上腕の筋②: 筋の起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
8回目	(筋学) 前腕の屈筋①: 筋の起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
9回目	(筋学) 前腕の屈筋②: 筋の起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
10回目	(筋学) 前腕伸筋①: 筋の起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
11回目	(筋学) 前腕伸筋②: 筋の起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
12回目	(筋学) 母指球筋・小指球筋・中手筋①: 筋の起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
13回目	(筋学) 母指球筋・小指球筋・中手筋②: 筋の起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
14回目	2学期の総復習を行い、より知識を深め習得する
15回目	2学期の総演習を行い、より知識を深め習得する

準備学習 時間外学習	事前学習と講義の復習を必ず行うこと。 暗記することも重要なのでコツコツで暗記すること。 毎回、課題・確認テストを行います。
---------------	--

評価方法	1. 定期試験 (80%) 2. 小テスト (20%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格
------	---	---

受講生への	柔道整復師として施術を行うためには、骨格系・筋系の知識がなければ施術はできません。臨床現場で信頼される柔道整復師となるためには、言葉だけの知識ではなく、立体的に説明できることが大事となります。日々の学習を怠らないようにして下さい。
-------	--

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:医歯薬出版株式会社「解剖学」、配布プリント

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	基礎柔道整復実技Ⅰ (Basic Judo Therapeutic LabⅠ)	必修 選択	必修	年次	Ⅰ	担当教員	東條 愛由美
学科	柔道整復科	授業 形態	講義・演習	総時間	90	開講区分	3学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	金曜日 1・4限

【授業の学習内容】

① 柔道整復理論の基礎である運動器の解剖を学習する。運動器の基礎を学ぶことで骨折・脱臼・軟部組織損傷の理解力を向上させる。また、国家試験において、解剖学や運動学で出題される運動器の問題に対応できるように学習する。

② 学習方法として、講義形式と体表解剖（触診）を交えながら行うことで、よりイメージできるように学習する。

※平成31(令和元年)～令和5年:整形外科、鍼灸院、整骨院に勤務
令和6年:柔道整復師専科教員免許取得

【到達目標】	
--------	--

目標Ⅰ：上肢骨・下肢骨の骨の名称、構造を理解・説明できる。
目標Ⅱ：胸部・背部・四肢の筋の起始・停止・作用・支配神経を理解・説明できる。
目標Ⅲ：骨のランドマークの触診ができる。

授業計画・内容

1回目	(筋学) 内寛骨筋: 起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
2回目	(筋学) 外寛骨筋①: 起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
3回目	(筋学) 外寛骨筋②: 起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
4回目	(筋学) 大腿の伸筋: 筋の起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
5回目	(筋学) 大腿の内転筋: 筋の起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
6回目	(筋学) 大腿の屈筋: 筋の起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
7回目	(筋学) 大腿の筋のまとめ: 筋の起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
8回目	(筋学) 下肢の伸筋①: 筋の起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
9回目	(筋学) 下肢の伸筋②: 筋の起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
10回目	(筋学) 下肢の屈筋①: 筋の起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
11回目	(筋学) 下肢の屈筋②: 筋の起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
12回目	(筋学) 腓骨筋群: 筋の起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
13回目	(筋学) 足部の筋: 筋の起始・停止・作用・支配神経を図示し理解・説明できる。
14回目	3学期の総復習を行い、より知識を深め習得する
15回目	3学期の総演習を行い、より知識を深め習得する

準備学習 時間外学習	事前学習と講義の復習を必ず行うこと。 暗記することも重要なのでコツコツで暗記すること。 毎回、課題・確認テストを行います。
---------------	---

評価方法	1. 定期試験 (80%) 2. 小テスト (20%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100~90点 S 89~80点 A 79~70点 B 69~60点 C 59点以下 F 不合格	
------	---	---	--

受講生への メッセージ	柔道整復師として施術を行うためには、骨格系・筋系の知識がなければ施術はできません。臨床現場で信頼される柔道整復師となるためには、言葉だけの知識ではなく、立体的に説明できることが大事となります。日々の学習を怠らないようにして下さい。	
----------------	--	--

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:医歯薬出版株式会社「解剖学」、配布プリント

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	基礎柔道整復実技Ⅱ (Basic Judo Therapeutic LabⅡ)	必修 選択	必修	年次	I	担当教員	奥村 祐汰
学科	柔道整復科	授業 形態	講義・演習	総時間	90	開講区分	I 学期
コース	I 部・II 部			(単位)	(3)	曜日・時限	金曜日 2・3限

【授業の学習内容】

外傷の整復後の再転位、再脱臼の予防、及び患部の安静保持を目的として固定に用いる非収縮性包帯の基本的な巻き方、基本包帯法（環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯、麦穂帯、亀甲帯）や冠名包帯などの巻き方を修得することを目的とし練習を行う。
基本包帯法、の練習後は種々の外傷（認定実技審査で出題される固定）を想定して上肢、下肢の各部位を被覆固定する練習を行う。
※実務経験
（奥村 祐汰）2014年～2020年まで接骨院と整形外科で勤務。（主業務は骨折・脱臼などの応急処置と後療法）
柔道整復専科教員免許取得教員

【到達目標】

- ・包帯法の基本的理論を理解
- ・患部を被覆する際の助手の使い方の修得
- ・基本包帯法を使用して上肢、下肢の各部位を被覆固定出来るようになる。

授業計画・内容

1 回目	基本包帯法の理論について説明出来るようになる。①
2 回目	基本包帯法の理論について説明出来るようになる。②
3 回目	環行帯、螺旋帯、蛇行帯について説明しながら巻けるようになる。①
4 回目	環行帯、螺旋帯、蛇行帯について説明しながら巻けるようになる。②
5 回目	折転帯、亀甲帯、麦穂帯について説明しながら巻けるようになる。①
6 回目	折転帯、亀甲帯、麦穂帯について説明しながら巻けるようになる。②
7 回目	基本包帯を使って種々な部位の被覆固定（手関節から肘関節）について説明しながら巻けるようになる。①
8 回目	基本包帯を使って種々な部位の被覆固定（手関節から肘関節）について説明しながら巻けるようになる。②
9 回目	基本包帯を使って種々な部位の被覆固定（上腕から肩関節 体幹）について説明しながら巻けるようになる。①
10 回目	基本包帯を使って種々な部位の被覆固定（上腕から肩関節 体幹）について説明しながら巻けるようになる。②
11 回目	基本包帯を使って種々な部位の被覆固定（足部 - ヒールロックを含む）について説明しながら巻けるようになる。①
12 回目	基本包帯を使って種々な部位の被覆固定（足部 - ヒールロックを含む）について説明しながら巻けるようになる。②
13 回目	基本包帯法の復習をして巻けるようになる。
14 回目	第I 学期学期末試験 ①
15 回目	第I 学期学期末試験 ② 及び解説

準備学習 時間外学習	・自宅でも家族の方に協力を願って出来るだけ数多く包帯を巻く練習をする。 ・包帯巻器だけを使用するのではなく、手で巻き戻す練習をする。
---------------	---

評価方法	1. 定期試験（100%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	実地試験（100%）出席・欠席数・授業態度を加味して評価する
------	---	---	--------------------------------

受講生への メッセージ	技術の向上は正しい練習の繰り返し以外ありません。ある一定の速さをもって、患部に均等な圧がかかるようにきれいに包帯が巻くことが出来るように日ごろから友人や家族に協力してもらい、数多く包帯を巻く練習をするように心がけること。
----------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：包帯固定学
6裂、5裂、4裂、3裂の非収縮性巻軸綿包帯（ライン帯）

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	基礎柔道整復実技Ⅱ (Basic Judo Therapeutic LabⅡ)	必修 選択	必修	年次	I	担当教員	奥村 祐汰
学科	柔道整復科	授業 形態	講義・演習	総時間	90	開講区分	2学期
コース	I部・II部			(単位)	(3)	曜日・時限	金曜日 2・3限
【授業の学習内容】							
外傷の整復後の再転位、再脱臼の予防、及び患部の安静保持を目的として固定に用いる非収縮性包帯の基本的な巻き方、基本包帯法（環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯、麦穂帯、亀甲帯）や冠名包帯などの巻き方を修得することを目的とし練習を行う。 基本包帯法、の練習後は種々の外傷（認定実技審査で出題される固定）を想定して上肢、下肢の各部位を被覆固定する練習を行う。 ※実務経験 （奥村 祐汰）2014年～2020年まで接骨院と整形外科で勤務。（主業務は骨折・脱臼などの応急処置と後療法） 柔道整復専科教員免許取得教員							
【到達目標】							
・基本包帯法を使用して上肢、下肢の各部位を被覆固定出来るようになる。 ・肩関節脱臼の理論を把握し、整復法・固定法について理解し、模擬整復が出来るようになる（ヴェルポー、ジュール包帯法）。 ・定型的鎖骨骨折の理論を把握し、整復法・固定法について理解し、模擬整復・模擬固定が出来るようになる（デゾー包帯法）。							
授業計画・内容							
1回目	基本包帯を使って種々な部位の被覆固定（下腿から膝関節）について説明しながら巻けるようになる。①						
2回目	基本包帯を使って種々な部位の被覆固定（下腿から膝関節）について説明しながら巻けるようになる。②						
3回目	冠名包帯 ヴェルポー包帯法（肩関節強制内転位固定法）について説明しながら巻けるようになる。①						
4回目	冠名包帯 ヴェルポー包帯法（肩関節強制内転位固定法）について説明しながら巻けるようになる。②						
5回目	冠名包帯 ジュール包帯法（肩関節強制内転位固定法）について説明しながら巻けるようになる。①						
6回目	冠名包帯 ジュール包帯法（肩関節強制内転位固定法）について説明しながら巻けるようになる。②						
7回目	冠名包帯 右側デゾー包帯法（鎖骨骨折の固定に用いる包帯法）について説明しながら巻けるようになる（鎖骨骨折の説明を含む）。①						
8回目	冠名包帯 右側デゾー包帯法（鎖骨骨折の固定に用いる包帯法）について説明しながら巻けるようになる（鎖骨骨折の説明を含む）。②						
9回目	冠名包帯 右側デゾー包帯法（鎖骨骨折の固定に用いる包帯法）について説明しながら巻けるようになる（鎖骨骨折の説明を含む）。③						
10回目	冠名包帯 左側デゾー包帯法（鎖骨骨折の固定に用いる包帯法）について説明しながら巻けるようになる（鎖骨骨折の説明を含む）。①						
11回目	冠名包帯 左側デゾー包帯法（鎖骨骨折の固定に用いる包帯法）について説明しながら巻けるようになる（鎖骨骨折の説明を含む）。②						
12回目	冠名包帯 左側デゾー包帯法（鎖骨骨折の固定に用いる包帯法）について説明しながら巻けるようになる（鎖骨骨折の説明を含む）。③						
13回目	基本包帯法（下腿から膝関節）、冠名包帯（ヴェルポー包帯、ジュール包帯、デゾー包帯）の復習をして巻けるようになる。						
14回目	第2学期学期末試験 ①						
15回目	第2学期学期末試験 ② と解説						
準備学習 時間外学習	技術の向上は正しい練習の繰り返し以外ありません。ある一定の速さをもって、患部に均等な圧がかかるようにきれいに包帯が巻くことが出来るように日ごろから友人や家族に協力してもらい、数多く包帯を巻く練習をするように心がけること。、授業中にはクラスメイトと積極的に実技の練習が出来るように用意をする。						
評価方法	1. 定期試験（100%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格		実地試験（100%）出席・欠席数・授業態度を加味して評価する			
受講生への メッセージ	技術の向上は正しい練習の繰り返し以外ありません。ある一定の速さをもって、模擬外傷の理論をベースに整復操作を行い、その後は患部の再転位、再脱臼、患部の安静を目的に患部に均等な圧がかかるように、きれいな包帯が巻くことが出来るよう、日ごろから友人や家族に協力してもらい、多くの回数包帯を巻く練習をするように心がけること。						
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書：包帯固定学 6裂、5裂、4裂、3裂の非収縮性巻軸面包帯（ライン帯）を使用 必要に応じてテープや腋窩枕子などを使用							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	基礎柔道整復実技Ⅱ (Basic Judo Therapeutic LabⅡ)	必修 選択	必修	年次	I	担当教員	奥村 祐汰 米女 博司
学科	柔道整復科	授業 形態	講義・演習	総時間	90	開講区分	3学期
コース	I部・II部			(単位)	(3)	曜日・時限	金曜日 2・3限

【授業の学習内容】

外傷の整復後の再転位、再脱臼の予防、及び患部の安静保持を目的として固定に用いる非収縮性包帯の基本的な巻き方、基本包帯法（環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯、麦穂帯、亀甲帯）や冠名包帯などの巻き方を修得することを目的とし練習を行う。

基本包帯法、の練習後は種々の外傷（認定実技審査で出題される固定）を想定して上肢、下肢の各部位を被覆固定する練習を行う。

※実務経験

（奥村 祐汰）2014年～2020年まで接骨院と整形外科で勤務。（主業務は骨折・脱臼などの応急処置と後療法）

柔道整復専科教員免許取得教員

【到達目標】

- ・鎖骨骨折の理論を把握し、その診察・及び整復法について理解し、模擬診察・整復が出来るようになる。
- ・肩鎖関節脱臼、上腕骨外科頸外転型骨折の理論を把握し、その診察・及び整復法について理解し、模擬診察・整復が出来るようになる。
- ・3学期実技試験に際し、定型的鎖骨骨折の診察及び整復、肩鎖関節上方脱臼・上腕骨外科頸外転型骨折の診察及び整復の模擬実技が出来るようになる。

授業計画・内容

1回目	治療法 診察・整復・検査の各論に入る前に治療法の理論を理解出来るようになる。
2回目	治療法 骨折・脱臼の整復法の原則、種類、適応、確認などの理論を理解出来るようになる。
3回目	治療法 軟部組織損傷（捻挫、筋・腱・神経損傷）の初期処置の理論を理解出来るようになる。
4回目	固定法 固定の目的、種類、範囲、肢位や期間について理解出来るようになる。
5回目	鎖骨骨折① - 鎖骨部の局所解剖、機能解剖を理解し、鎖骨骨折の理論を理解することが出来るようになる。
6回目	鎖骨骨折② - 鎖骨骨折の診察の流れ、診察、整復操作について理解して出来るようになる。
7回目	肩鎖関節脱臼① - 肩鎖関節部の局所解剖、機能解剖を理解し、肩鎖関節脱臼の理論を理解することが出来るようになる。
8回目	肩鎖関節脱臼② - 肩鎖関節脱臼の診察の流れ、診察、整復操作について理解して出来るようになる。
9回目	鎖骨骨折・肩鎖関節脱臼の共通点、相違点を理解し診察の流れ、整復操作について理解して出来るようになる。
10回目	上腕骨外科頸外転型骨折① - 上腕部の局所解剖、機能解剖を理解し、上腕骨外科頸外転型骨折の理論を理解することが出来るようになる。
11回目	上腕骨外科頸外転型骨折② - 上腕部の局所解剖、機能解剖を理解し、上腕骨外科頸外転型骨折の理論を理解することが出来るようになる。
12回目	鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼、上腕骨外科頸外転型骨折の診察及び整復法の流れについて復習し、患部を観察しながら診察及び整復操作が出来るようになる。①
13回目	鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼、上腕骨外科頸外転型骨折の診察及び整復法の流れについて復習し、患部を観察しながら診察及び整復操作が出来るようになる。②
14回目	第3学期学期末試験 ①
15回目	第3学期学期末試験と解説②

準備学習 時間外学習	定型的鎖骨骨折、肩鎖関節上方脱臼、上腕骨外科頸外転型骨折についての局所解剖や理論を勉強し、理解して実技の授業中に積極的に実技の練習を行うことが出来るように準備する。
---------------	--

評価方法	1. 定期試験（100％） 2. 小テスト（％） 3. レポート（％） 4. 課題成果（％） 5. 実地試験（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	実地試験（100％）出席・欠席数・授業態度を加味して評価する
------	---	--	--------------------------------

受講生への メッセージ	正しい場所を触診し、正しい整復操作を学び、診察から整復の行程を頭と身体に覚え込む。実技は総合演習になります。柔道整復学で学んだ内容をよく復習し、整復実技で知識を深めていきましょう。
----------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

柔道整復実技・柔道整復理論の教科書